

日韓市民による世界遺産ガイドブック

「明治日本の 産業革命遺産」と 強制労働



目次

はじめに	2
1 「明治日本の産業革命遺産」の構成と特徴	5
「明治日本の産業革命遺産」の分布	6
日本の産業遺産登録の試みと遺産構成	9
九州地域の産業遺産施設における案内の現状	12
2 「明治日本の産業革命遺産」の歴史—侵略戦争、植民地、強制労働	15
アジア侵略によって成し遂げられた明治日本の近代化	16
植民地朝鮮からの強制動員	20
アジア太平洋戦争期における中国人と連合軍捕虜の強制労働	24
3 強制労働の現場—製鉄所、造船所、炭鉱	29
八幡製鉄所：日清戦争での賠償金で建設	30
三菱長崎造船所：魚雷・軍艦の生産と原爆	42
高島・端島の炭鉱：三菱鉱業の「圧制のヤマ」	52
三池炭鉱：強制労働で成長した三井財閥の炭鉱	64
4 世界遺産で強制労働を語り伝える意義	75
世界遺産の中の強制労働	76
未解決の戦後補償：強制労働被害者の権利	79
強制動員の歴史の記憶と継承のための活動	81
資料	
日韓市民団体共同声明書（2017年7月）	85

はじめに

2015年7月5日、ドイツのボンで開催された第39回ユネスコ（UNESCO、国際連合教育科学文化機関）世界遺産委員会は、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」を世界遺産に登録すると決定しました。ユネスコの世界遺産に登録されたということは、その遺産が「顕著な普遍的価値」を持つ人類共同の遺産であり、また特定の国家や国民の専有物ではなく、すべての人類が大切に、保護すべき遺産であり、そしてわたしたちの世代だけでなく、次世代にまできちんと引き継いでいくべき遺産として、特別に指定されたということです。

しかし、日本と韓国の市民団体は、「明治日本の産業革命遺産」には日本の侵略戦争、植民地支配、強制動員、強制労働など、記憶すべき「負の歴史」が示されていないと批判しています。「明治日本の産業革命遺産」にはユネスコの精神と価値がきちんと反映されているのでしょうか。

「明治日本の産業革命遺産」が世界遺産に登録された際、世界遺産委員会は、日本に対して、各施設の「歴史の全貌」が分かるようにする「解釈戦略」を立てなければならないと特別に勧告しました。これをふまえ、佐藤地ユネスコ日本大使は、「日本は、1940年代にいくつかのサイトにおいて、その意思に反して連れて来られ、厳しい環境の下で働かされた多くの朝鮮半島出身者等がいたこと、また、第二次世界大戦中に日本政府としても徴用政策を実施していたことについて理解できるような措置を講じる所存である」（日本政府訳）という立場を明らかにしました。さらに、「日本は、インフォメーションセンターの設置など、犠牲者を記憶にとどめるために適切な措置を〔世界遺産委員会が勧告した〕説明戦略に盛り込む所存である」とも発言しました。

そのため日本政府は、各施設の「歴史の全貌」を示さなければならず、2017年12月1日までにこれに関する進行状況をユネスコに報告しなければなりません。しかし、これまでの日本政府の対応から、世界遺産委員会の勧告を日本政府が忠実に履行するとはみられません。

わたしたちは強制労働被害者と共に日本と韓国で被害の真相を明らかにし、被害回復にむけて活動してきました。その立場から、「明治日本の産業革命遺産」の説明では、不都合ではあっても背を向けてはならない強制労働などの「負の歴史」を加えなければならないと考えます。日本の植民地支配と侵略戦争によって

被害を受けた人びとの訴えは今も継続しています。第二次世界戦争が終わってから70年余りが過ぎたにもかかわらず、いまだに強制動員、強制労働の傷が解決されていないからです。「負の歴史」の徹底した真相究明、謝罪と賠償、犠牲者追悼と記憶がすすめられなければならないのです。これが、わたしたちが「明治日本の産業革命遺産」を批判する理由でもあり、このガイドブックをつくった目的でもあります。

わたしたちは、このガイドブックを通して、「明治日本の産業革命遺産」という名称でくられた産業遺産がどのようなものであるか、その構成の問題点を探りたいと思います。また、各施設での隠された歴史、強制労働の歴史を掘り下げ、被害者の声に耳を傾けるとともに、なぜ世界遺産において強制労働問題が取り上げられるべきなのかを考えたいと思います。このガイドブックが、産業化と戦争、国家暴力と人権侵害の歴史を示し、未来のための反省の材料になることを期待しています。

「忘却の対義語は、記憶でなく正義だ」という言葉があるように、強制動員、強制労働の歴史を記憶しようというわたしたちの声は、正義を実現するための訴えです。わたしたちは、産業遺産が勝者の戦利品へと転落してはならず、それが強者の記憶だけを強要するものであってはならないと訴えます。

ユネスコの精神が「いま、ここで」実現されなければならないという意味と夢を、このガイドブックに込めました。

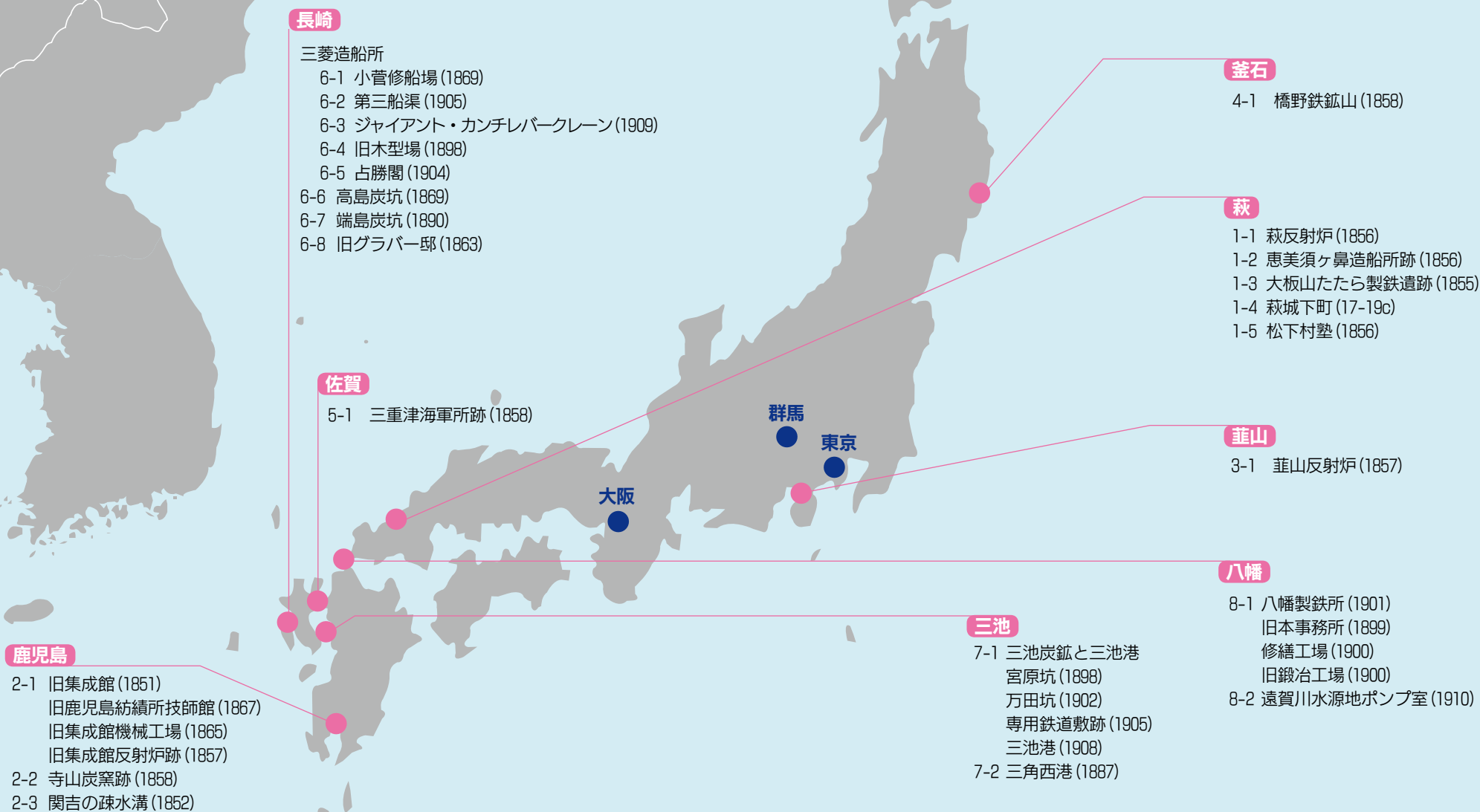
強制動員真相究明ネットワーク・民族問題研究所

1

「明治日本の産業革命遺産」の構成と特徴



「明治日本の産業革命遺産」の分布



「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は、九州・山口を主とする幕末の1850年代から明治末の1910年までの産業遺産施設です。

「明治日本の産業革命遺産」の構成施設は8県に点在しており、全部で23か所あります。これらの産業遺産は、九州・山口に集中しています。

第1は、山口県の萩（長州藩）の産業遺産です。構成施設は、萩反射炉（大砲建造用）、恵美須ヶ鼻造船所跡、大板山たたら製鉄遺跡（船用部材）、萩城下町、松下村塾の5か所です。

第2は、鹿児島県の薩摩藩による旧集成館、寺山炭窯跡（燃料用木炭）、関吉の疎水溝（動力用水）の3か所です。旧集成館関係施設には旧集成館反射炉跡（造船・大砲製造）、旧集成館機械工場、旧鹿児島紡績所技師館（宿舍）が含まれています。寺山炭窯跡と疎水溝は幕末の産業化の初期遺産という位置づけです。

第3は、長崎県の長崎造船所と高島炭鉱です。造船所は、小菅修船場跡、第三船渠、ジャイアント・カンチレバークレーン、旧木型場、占勝閣（迎賓館）の5か所です。高島炭鉱には高島と端島の2か所があります。高島炭鉱を経営したグラバーの住宅（グラバー園）も産業遺産とされています。

第4は、福岡県と熊本県の三池炭鉱・三池港と三角西港の2か所です。三池炭鉱の施設としては、宮原坑、万田坑、専用鉄道敷跡が含まれています。

第5は、福岡県の八幡製鉄所と遠賀川水源地ポンプ室（製鉄所への送水用）の2か所で構成されています。八幡製鉄所関係施設には製鉄所の旧本事務所、修繕工場、旧鍛冶工場が含まれています。

この他に、産業化初期の産業遺産として、静岡県韮山の反射炉、岩手県釜石の橋野鉄鉱山、佐賀県の三重津海軍所跡（佐賀藩の船渠跡）の3か所が付け加えられています。

これらのなかで明治期の製鉄・製鋼、造船、石炭の産業化を示すものは、福岡県の八幡製鉄所、福岡県と熊本県の三池炭鉱、長崎県の長崎造船所と高島炭鉱（高島・端島）です。

日本の産業遺産登録の試みと遺産構成

名称を変え、官邸主導で推進

「明治日本の産業革命遺産」の世界遺産登録申請の試みは、1999年から始まりました。当初は、「九州・山口の近代化産業遺産群」の名で登録をすすめていたのですが、2014年1月、「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」に名称・時期を変更し、ユネスコに申請書を提出しました。登録の対象とした施設をめぐる、侵略戦争、強制労働などの問題が指摘されるようになるなかでの変更でした。対象とした施設の多くが稼働中であったため、文化財関連法（景観法）を変更して推進しました。また、世界遺産登録申請は、これまで文化庁と該当地域の自治体が担当してすすめてきましたが、「明治日本の産業革命遺産」に関しては日本政府が官邸主導ですすめたという点が特徴です。

「明るい明治」・「産業革命」の成功物語

「明治日本の産業革命遺産」は、長州と薩摩での産業化の試みと八幡製鉄、長崎造船、高島炭鉱、三池炭鉱などの鉄と石炭、造船とをつなげたものです。それは産業化の成功物語です。「明治日本の産業革命遺産」は、技術革新と資本形成の視点での物語であり、日本の産業発展を賛美する内容で構成されています。そこで労働した人びとや戦争、植民地支配などの国際関係をふまえ、歴史を全体的にとらえるという観点がありません。

「産業革命遺産」といいながら、技術と施設という資本の側面だけを強調し、それを支えた人びとの労働の実態を無視する態度は、2014年に世界遺産に登録された群馬県の富岡製糸場の物語においてすでに見られました。日本政府は、富岡製糸場を世界遺産へ推薦した理由について、西洋の技術を導入し、国内で養蚕・製糸技術を改良し、世界の絹産業の発展と消費の大衆化に寄与した、そこに普遍的な価値があるとしました。しかし、製糸工場での労働者の状態、産業化による貧富の拡大、朝鮮への資本輸出、戦時の軍需生産などについては示されていません。明治の産業化だけが賛美され、観光資源とされているのです。



富岡製糸場（2017年8月）

「明治日本の産業革命遺産」の物語では、幕末から明治にかけての産業化が植民地とされることのない日本の歴史をつくったとします。しかし、日本の「産業革命」による石炭業、鉄鋼業、造船業などの重工業化は、日清・日露の戦争、第一次世界戦争などの戦争によってすすめられました。それは朝鮮、台湾、中国への侵略と占領、植民地支配をとまなうものでした。産業化とその拡大は、さらなる戦争につながりました。

「殖産興業」、「富国強兵」の用語からも明らかなように、「明治日本の産業革命遺産」は、近代日本の産業発展と共に戦争の歴史と深い関係があり、その出発から軍事的な性格をもつものだったのです。主要な産業施設は、第二次世界戦争期に、朝鮮人、中国人、連合国捕虜が強制労働をさせられた歴史の現場となりました。

「明治日本」一意図された編集、隠蔽された歴史

「明治」（1850年代から1910年まで）と時期が限定され、偏った歴史認識が土台となったことで、「明治日本の産業革命遺産」は日本における近代産業施設のほんの一部しか含まれないという奇妙な構成になりました。

1927年に完成した八幡製鉄所の河内貯水池は、産業遺産として欠くことのできない重要な施設ですが、「明治日本の産業革命遺産」に含まれていません。1963年に凄惨な炭塵爆発事故が起きた三池炭鉱の三川坑は、1939年に採掘が開始された施設であるために含まれていません。筑豊の炭鉱は産業遺産からごっそり排除されました。北九州の筑豊は15万人の朝鮮人が強制動員された炭鉱地帯でもあります。官営八幡製鉄所は石炭供給のために筑豊の二瀬炭鉱を運営していました。時期や意義を考えれば、二瀬炭鉱も「明治日本の産業革命遺産」に含まれるべき施設ですが、除かれています。二瀬炭鉱では1903年の火災事故で64人の死者が発生しましたが、これに関する説明も見当たりません。



三池炭鉱・三川坑の坑口と坑内（2017年9月）

再び「戦争ができる国」に

いわゆる歴史修正主義の考え方がよく表れているものが、2015年に出された「戦後70年」の安倍談話です。

「戦後70年」の談話において、安倍首相は、朝鮮の植民地支配にふれませんでした。日露戦争は植民地支配下のアジア・アフリカの人びとを勇気づけたとしました。日本は「満洲事変」以後、進むべき針路を誤ったとしながらも、謝罪や反省は、過去の政権の言葉として示し、みずからの言葉として示しません。

被害者への賠償の言葉もありません。中国人が戦争の辛酸を嘗め尽くしたとしていますが、日本によるものとは言いません。アジアに対する日本の加害についても具体的にふれません。

米国・英国・オランダ・豪州の捕虜については言及し、和解の努力に感謝するとします。そして、子や孫、その先の世代に謝罪を続ける宿命を背負わせてはいけなくとしています。

談話は、繁栄を平和の基礎とし、最後に「積極的平和主義」を示しました。ここでの「積極的平和主義」は、日米の軍事同盟を強め、日本国憲法の平和主義を変えろという考え方で。

誇らしい歴史だけを記憶するという、反省のない歴史認識は、再び日本を戦争ができる国にするためのプロジェクトと連動しています。「明治日本の産業革命遺産」の物語もこの一環とみられます。



2015年8月、安倍談話を批判的に報道する記事

九州地域の産業遺産施設における案内の現状

世界遺産委員会の勧告は履行されているか

2015年、世界遺産委員会は「明治日本の産業革命遺産」について、「歴史の全貌」が分かるようにすることを日本政府に勧告しました。しかし、日本政府や地方自治体がこの勧告を忠実に履行しているのか、とても疑わしい状況です。

2017年9月1日から5日、現地調査で確認したところ、九州地域の産業遺産の案内板や資料では、年譜式のそっけない説明がほとんどです。

八幡製鉄所の旧本事務所眺望スペースの案内板には日本語と英語でつぎのように記されています(2017年9月)。

日本語：官営八幡製鉄所は、世界遺産一覧表に記載された明治日本の産業革命遺産の構成施設の一つである。19世紀の半ば、西洋に門戸を閉ざしていた東洋の一国は、海防の危機感より西洋科学に挑戦をし、工業を興すことを国家の大きな目標として、西洋の産業革命の波を受容し、工業立国の土台を築いた。明治日本の産業革命遺産は、1850年代から1910年の日本の重工業（製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業）における大きな変化、国家の質を変えた半世紀の産業化を証言している。

英語：1850年代から1910年まで、日本の急速な産業化を反映する世界遺産遺跡の資産の一つで、主に製鉄、製鋼、造船と石炭産業に基いている。このような成功な産業化は、わずか50年ほどの短い間に、植民地とされることなく、日本自身で成し遂げた。



八幡製鉄所旧本事務所眺望スペースと三池炭鉱・万田坑に設置されている案内板(2017年9月)

近代日本の産業発展を現場で担っていた労働者の話は抜け落ちており、機械や設備に焦点を当てた偏った説明になっています。産業発展の過程での日本人労働者、女性、子ども、受刑者の労働や、連帯と団結を通じて人間であることを宣言した労働者の抵抗の歴史がありません。また、本人の意志と関係なく強制的に連れてこられ、強制労働させられた韓国人、中国人、連合軍捕虜の歴史も抜け落ちています。

長崎市が作成した端島に関するパンフレットも同様です(2017年9月現在)。長崎市観光推進課が作成したパンフレット「明治日本の産業革命遺産と長崎の近代化遺産」には、「外国の脅威」という危機意識が西洋の知識と技術を受容し、日本の近代化を達成させたと記されています。それは一面的な説明です(2017年9月現在)。

「外国の脅威」という危機意識は、台湾、朝鮮など近隣国を侵略し、植民地にする膨張主義へと早変わりしました。世界遺産に登録された産業遺産が戦争経済を支えたこと、それを説明することで「歴史の全貌」に近づくことができるのです。

『新長崎市史』第3巻(近代編、2014年)では、高島炭鉱が日本近代史での「苦難の歴史」、「負の遺産」を示す社会教育の場であると指摘しています。明治以来、甘い言葉で炭鉱に連れてきて、暴力で働かせ、多くの死者が出たこと、戦争中は朝鮮半島、中国からも連れてきて同じことをしたと明記され、連行された朝鮮人、中国人の証言についても紹介しています。

「明治日本の産業革命遺産」の説明に際しても、「苦難の歴史」、「負の遺産」を語るべきではないでしょうか。



長崎市作成の近代化遺産と端島に関するパンフレット(2017年9月)

1 歴史の賛美ばかりの解説

歴史の暗い側面を完全に排除した説明は、現地ガイドの説明においても繰り返し見られます。ガイドの多くは、産業遺産に関する豊富な知識をもって解説しています。しかし、肝心の戦争と強制労働に関しては知らないと言う者がほとんどです。

荒尾市が作成した三池炭鉱の歴史、万田坑に関するパンフレット（2017年9月）を見ると、日本語版には「植民地朝鮮の人々や、中国の人々、連合国軍捕虜などを強制労働させた」と書かれています。しかし、残念なことに、外国語版では強制労働に関する記述が抜け落ちています。現地ガイドは説明しないどころか、朝鮮人がいたかどうかの質問に対して、「答えないことにしている」と話しました。

産業遺産の解説において、強制労働問題に関する暗黙の了解があるのではない、あるいは目に見えない統制がなされているのではないかという疑いを持たざるをえません。

今のところ、「明治日本の産業革命遺産」の説明においては、ユネスコの精神をふまえての解説はみられません。世界遺産を利用した観光化と産業の歴史の賛美がなされています。

では、何をどのように説明するべきなのでしょう。具体的に見ていきましょう。



荒尾市が作成したパンフレット（2017年9月）

2

「明治日本の産業革命遺産」の歴史 侵略戦争、植民地、強制労働



『凱旋・羅南市街の行進』『満洲事変出動記念写真帖』

アジア侵略によって成し遂げられた 明治日本の近代化

侵略戦争の始まり、近代化の出発

東アジアでは日本が最初に西欧式の近代化をすすめました。日本では、幕府と藩による政治体制に代わり、新しい中央集権国家への近代改革がすすめられました(明治維新)。明治政府は産業化をすすめるなかで、琉球、台湾、朝鮮などを占領していきます。

日本の「産業革命」は日清戦争、日露戦争とともにすすみました。日本は清からの賠償金で金本位制を確立し、八幡製鉄所を建設しました。1850年代から1910年に至る「明治日本の産業革命遺産」は、産業化だけでなく、侵略のはじまりを物語るものです。

世界遺産となった対外侵略論者の塾

「明治日本の産業革命遺産」に含まれた松下村塾は、吉田松陰が関わった私塾です。吉田松陰は軍備の拡張と対外侵略を主張しました。吉田松陰の思想的影響もあり、明治政府のなかで「征韓論」という朝鮮侵略論が生まれました。征韓論は近隣諸国を侵略する戦争論であり、日本による江華島事件、日清・日露戦争、朝鮮の強制占領につながりました。



「日韓併合記念葉書」



日章旗が掲げられた景福宮
(1915年)



吉田松陰肖像



松下村塾

伊藤博文や山県有朋は吉田松陰の思想を実践しました。伊藤博文は日本帝国主義のアジア侵略と朝鮮植民地化を主導した人物です。伊藤は1905年、韓国に第二次日韓協約(乙巳保護条約)を強要し、朝鮮を「保護国」とし、初代韓国統監になりました。1907年、韓国皇帝の高宗がハーグ万国平和会議に特使を派遣し、日本の保護国化の不法を訴えようとする、高宗を強制退位させ、韓国軍隊を解散させました。これを契機に義兵闘争が全国に拡大しました。伊藤は武力弾圧を指示し、韓国駐劄軍司令官の長谷川好道が弾圧の指揮をとりました。

義兵闘争に関する日本政府側の記録によれば、1907年から1910年の間だけで、少なくとも14万人余りが義兵闘争に参加し、命を奪われた者は17,000人を超えました。山県有朋は日本陸軍の基礎を築きましたが、長谷川好道はこの山県系の軍人でした。のちに長谷川は寺内正毅に続いて第2代の朝鮮総督となり、3・1独立運動を弾圧しました。

日本は、松下村塾を、産業化をすすめる人物を育てた場所として、「明治日本の産業革命遺産」に組み込みました。しかし、松下村塾は、アジア侵略の思想と歴史を正当化する歴史観が形成されたところであり、産業遺産施設ではありません。



「韓国併合」記念葉書(写真は右から伊藤博文、寺内正毅、曾根荒助)

対外膨張を主張した吉田松陰の松下村塾を産業遺産に含めたことは、過去の戦争への反省と侵略を受けた地域への配慮のなさを示すものです。そのような姿勢は、周辺国への一種の侮辱であり、欺瞞という批判を呼んでいます。

日本には、日本国憲法を変え、海外で軍事力行使ができるようにしようとする動きがあります。松下村塾、吉田松陰の賛美は、そのような動きを反映するものと見られます。



松下村塾（2016年3月）

「負の世界遺産」とユネスコ精神

ユネスコが生まれた理由は、人類が経験した二度の世界戦争と、それによる数多くの罪悪を反省し、それを繰り返さないためです。ユネスコは、人間の心のなかに平和の砦を築くことをめざし、人間の尊厳のために、文化を普及し、正義・自由・平和のための教育をすすめ、さまざまな民族間の知的、精神的連帯を強め、それにより国際平和と人類共通の福祉を実現していく国際機構です（ユネスコ憲章、1945年採択）。1972年、第17回ユネスコ総会は「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」（世界遺産条約）を採択しました。そこでは、人類共同の遺産の基準とその保護原則が提示されました。

ユネスコ世界遺産は美しく、肯定的な価値をもつものがほとんどですが、人類が再び引き起こしてはならない悲劇を象徴する遺産もあります。そのような歴史の反面教師にするべき遺産を、わたしたちは「負の遺産」と呼びます。「負の遺産」が残した傷は、簡単に消すことができないものであり、癒やせないものです。わたしたちはそれを記憶しつづければならないのです。

ユネスコは世界遺産条約に基づき、人類が犯した「負の遺産」についても世界遺産に指定し、保存してきました。代表的な例として、ナチス・ドイツがコダヤ人を無残に虐殺したポーランドのアウシュヴィッツ・ビルケナウ強制収容所、アフリカの奴隷貿易の中心地であったセネガルのゴレ島、67回の核実験がおこなわれたビキニ環礁核実験場などがあります。そのような世界遺産を通じ、いまの世代と未来の世代が暗い

過去を振り返り、過ちを再び繰り返さないことを決意したのです。

日本政府が物語る「明治日本の産業革命遺産」は企業家や技術者だけに光を当てたものです。産業化が数多くの労働者の血と汗によるものであること、侵略戦争と植民地支配、朝鮮人、中国人、連合軍捕虜の強制労働など、記憶されるべき歴史が忘却され、隠されています。

「負の歴史」もきちんと説明し、亡くなった人びとに思いを馳せ、教訓としてこそ、世界遺産としての普遍的な価値を世界の人びとと共有することができます。



アウシュヴィッツ
ビルケナウ強制収容所と展示



植民地朝鮮からの強制動員

余すことなく総動員せよ！

「明治日本の産業革命遺産」として登録された施設のうち、日本製鉄八幡製鉄所、三井三池炭鉱、三菱高島炭鉱（高島・端島）、三菱重工業長崎造船所などは、朝鮮人強制動員、強制労働の現場でもありました。その施設に動員されたわけではありませんが、釜石の鉱山や釜石製鉄所も強制動員、強制労働の現場です。

日本は、1931年の満洲侵略に続き、1937年、中国に対して全面的侵略戦争を引き起こしました。それにより植民地朝鮮から物や人を総動員する体制を強めました。日本は朝鮮人を日本人化するための皇民化政策をすすめ、日本、サハリン、南洋諸島など広範囲な地域への「労務動員計画」を立てました。

日本へは80万人が労務動員されました。朝鮮女子勤勞挺身隊員として工場に動員された人もいました。また軍人、軍属として36万人以上が軍務動員されました。日本軍「慰安婦」とされた女性もいました。朝鮮内ではのべ600万人以上の朝鮮人が強制動員されました。



徴兵広報葉書



「皇国臣民の誓詞」



朝鮮人動員の写真（『戦ふ朝鮮』1945年6月）

強制労働、日常化した監視と暴力

1939年から始まった日本による労務動員政策は、労働力の確保を目的に、日本国家と企業が動員計画を立て、組織的に行ったものでした。

日本は甘言や暴力によって朝鮮での強制動員をすすめました。動員された人びとは日本各地の炭鉱、鉱山、土木工事現場、軍需工場、港湾などに連行され、暴力的監視の下で、行動の自由もなく、賃金もまともに受け取ることができない生活を強いられました。

動員された人びとは苛酷な環境の下で働かれ、深刻な民族差別を受けました。空腹に苦しめられ、満期になっても期間を延長され、帰郷できない場合が多かったのです。残された家族は収入が途切れ、窮乏に陥りました。当時の記録には、そのような動員状況を「人質的略奪、拉致」と記したものがあつた。

「明治日本の産業革命遺産」関連では、約33,400人の朝鮮人が強制労働の被害にあったとみることができます。



小暮泰用「復命書」（内務省管理局長宛、1944年7月31日）

「明治日本の産業革命遺産」関連施設での朝鮮人・中国人・連合軍捕虜の動員数

強制労働現場	朝鮮人	中国人	連合軍捕虜
八幡製鉄所	八幡製鉄所 約4,000人 八幡港運 約4,000人 二瀬炭鉱 約4,000人	八幡港運 201人 二瀬炭鉱 805人	八幡製鉄所 1,353人 二瀬炭鉱 601人
長崎造船所	約6,000人	—	約500人
高島炭鉱 (高島・端島)	約4,000人	409人	—
三池炭鉱	9,264人	2,481人	1,875人
釜石鉱山 釜石製鉄所	釜石鉱山 約1,000人 釜石製鉄所 1,263人	釜石鉱山 288人	釜石鉱山 410人 釜石製鉄所 401人
計	約33,400人	4,184人	5,140人

注：八幡製鉄所では八幡港運と二瀬炭鉱を関連施設として含め、その動員数をあげた。三池炭鉱は万田・宮浦・四山・三川など各坑への動員数の合計である。

死亡者数は判明分で、三菱高島炭鉱の端島坑で約50人、三池炭鉱で約50人、長崎造船所で約60人です。高島炭鉱・高島坑と八幡製鉄所についてはわずかな人数しかわかっていません。長崎で被爆した朝鮮人のその後の状況も不明です。

強制労働禁止条約違反！

「明治日本の産業革命遺産」における朝鮮人の強制労働問題は、ユネスコだけの問題ではありません。すでにILO（国際労働機関）は、日本による戦時の朝鮮人、中国人への強制労働は、強制労働に関する条約（第29号）に違反したものと認め、1999年、日本政府に問題解決に乗り出すよう専門家委員会報告を出しています。その後、何度も繰り返し勧告しています。しかし、日本政府は沈黙を続けています。

他方、韓国内で「戦犯企業」と批判されている三井、三菱、新日鉄住金の施設を世界遺産に登録する活動をすすめ、そこで強制労働がなされたことを認知しようとしません。

日本政府が強制労働の歴史を認知し、侵略戦争と強制労働という負の遺産を明示することが求められます。

強制動員、強制労働はなかった？

2015年7月の「明治日本の産業革命遺産」の登録に際し、日本政府は次のように発言しました。

Japan is prepared to take measures that allow an understanding that there were a large number of Koreans and others who were brought against their will and forced to work under harsh conditions in the 1940s at some of the sites, and that, during World War II, the Government of Japan also implemented its policy of requisition.

下線を引いた部分は、「数多くの朝鮮人などが」、「意に反して連行され」、「ひどい状態で労働を強いられた」と訳せます。「others」は中国人や連合軍捕虜を示します。日本はこの登録に際し、インフォメーションセンターの設置など犠牲者を記憶するために適切な処置をとると約束しました。

このような英語の表現は国際社会に対し、朝鮮人の強制動員、強制労働を認めるものです。しかし、この発言ののち、日本政府は「forced to work」は「強制労働の意ではない」とし、「戦時の朝鮮半島出身者の徴用は、国際法上の強制労働にあたらない」と強弁しました。日本政府は、朝鮮人が意に反して徴用されたこともあったが、違法な強制労働ではなかったと主張したのです。強制労働を認めないが、働かせたことはあったとし、動員期を限定し、徴用は合法であり、犯罪ではないという日本政府の主張は、歴史をみずから都合よく書き換えようとするものです。

日本政府は強制動員された朝鮮人の動員数や死亡者数をいまだに明らかにしようとしません。日本国家と企業は無念の死を遂げた朝鮮人が何人なのか、負傷者は何人なのか、その真相を究明する責任を全うしていないのです。

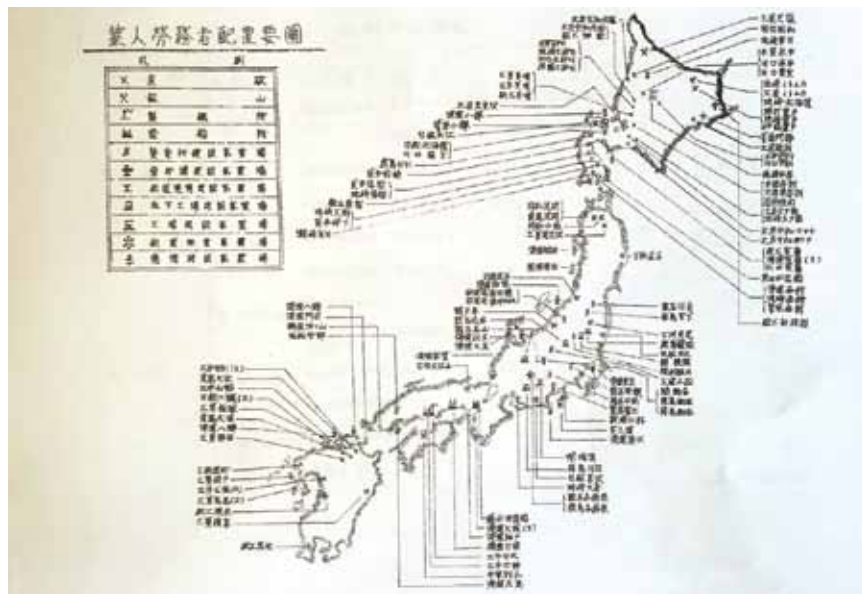
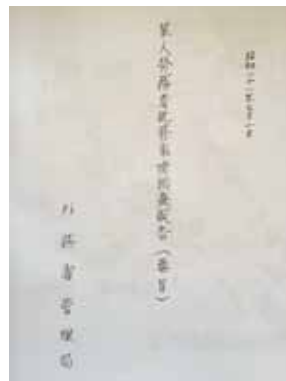
朝鮮人の強制動員、強制労働問題は被害者の奪われた人権の回復の問題です。

アジア太平洋戦争期における 中国人と連合軍捕虜の強制労働

中国人の強制労働

侵略戦争の長期化と拡大をすすめた日本は、労働力を補充するため、朝鮮人だけでなく中国人を強制連行しました。

日本の外務省は戦後の1946年3月に中国人の連行状況をまとめた『華人労務者就労事情調査報告書』を作成しています。それによれば、中国人は1943年4月から45年6月までに、日本軍や現地の労務統制機構である華北労工協会などによって、のべ38,935人が日本各地の135の事業所に連行されました。中国人の連行者のうち、6,830人が死亡しています。死亡率は17.5パーセントです。死亡診断書の死因欄には大腸炎や胃腸炎と記載されているものがありますが、栄養失調、酷使、虐待による死亡を隠蔽するものです。中国内の収容所でも虐待され、連行途中に数多くの人びとが死亡しています。



外務省管理局『華人労務者就労事情調査報告書』（1946年3月）表紙と「華人労務者配置要図」

日本は中国人を捕虜として扱わず、「供出」や「募集」の形で、契約を偽装して、連行しました。中国人連行者による抵抗闘争もありましたが、警察と憲兵によって弾圧されました。

「明治日本の産業革命遺産」関連では、三池炭鉱に2,481人、三菱高島炭鉱（高島・端島）に409人、日鉄八幡港運に201人、日鉄二瀬炭鉱805人など、3,896人が連行されました。三池では約500人、高島・端島で30人、八幡港運で20人、二瀬炭鉱で89人が死亡しています。日鉄釜石炭山にも中国人288人が連行されました。

河北省から端島に連行された李慶雲さん

李慶雲さんは、1942年に八路軍に入り、1943年11月に日本軍に包囲され、捕まりました。日本軍は村を襲撃し、家の物を奪い、焼きました。拷問を受け、何度も気絶しました。監獄から収容所に送られ、そこから端島に連行されました。収容されたのは粗末な木造家屋であり、一部屋に40人から50人が詰め込まれました。休日はなく、12時間の2交替でした。

坑内では褌ひとつ、裸のまま働かされました。空腹のためめまいがして、石炭を積む作業が遅れたことがありましたが、監督はこん棒で頭を後ろから殴りました。病気でも休むことができず、治療もなく、食事が減らされました。2人がガス漏れで亡くなった時、7人で炭鉱長との交渉を要求し、就労を拒否しました。7人は縛り上げられ、滅多打ちにされ、警察に連行されました。警官に首の後ろを切られ、鮮血が噴き出まし



2002年7月、右から端島に連行された李慶雲さん、高島に連行された連双印さん（『浦上刑務支所中国人原爆犠牲者追悼碑報告集』2008年）

た。帰国後は、対日協力者とみなされ、肩身の狭い思いをしました（長崎在日朝鮮人の人権を守る会『(増補改訂版) 軍艦島に耳を澄ませば』2016年）。



2004年12月、長崎地方裁判所前、歴史の公道と人間の尊厳を返せと訴える中国人（『浦上刑務支所中国人原爆犠牲者追悼碑報告集』）

連合軍捕虜の強制労働

日本がアジア・太平洋地域で捕まえた連合軍捕虜は35万人にのぼりました。そのうち、アメリカ、英連邦、オランダなどの欧米系の連合軍捕虜は約15万人でした。過酷な取り扱いなどにより、欧米系の連合軍捕虜は敗戦時には111,902人となっています。死者は3万人を超えました。

日本は連合軍捕虜約36,000人を日本本土の約130か所の収容所に送り、強制労働させました。そこで3,415人が死亡しました（俘虜情報局『俘虜取扱の記録』）。連行途中に攻撃を受け、海没した捕虜は1万人を超えています。輸送船は「ヘルシップ」（地獄船）と呼ばれました。

「明治日本の産業革命遺産」関連では、連合軍捕虜は、三池炭鉱に1,875人、長崎造船所に約500人、八幡製鉄所に1,353人、日鉄二瀬炭鉱に601人の計4,329人が連行され、労働を強いられました。死亡者数は三池炭鉱138人、長崎造船所113人、八幡製鉄所158人、日鉄二瀬炭鉱54人の計463人です。日鉄釜石製鉄所・釜石鉱山にも連合軍捕虜が約800人連行されました。

フィリピンで捕虜になり、三池炭鉱に連行されたレスター・I. テニーさん

レスター・I. テニーさんは1942年4月にフィリピンのパターンで捕虜になりました。収容所から逃走し、ゲリラに加わりましたが、捕えられ、拷問を受けました。パターン、カバナチュナンを経て、マニラから大牟田の収容所に送られました。三池炭鉱で1日12時間の強制労働をさせられました。時にはショベルやツルハシ、石炭運搬用の鉄鎖で殴打されるなどの虐待を受けました（レスター・I. テニー『パターン 遠い道のりのさきに』2003年）。



レスター・I. テニーさん（2010年）

ジャワ島で捕虜になり、三池炭鉱に連行されたポール・ダニエルさん

ポール・ダニエルさんはインドネシアのジャワ島で捕虜になり、1943年12月に福岡での飛行場工事に動員され、1944年12月に三池炭鉱に送られました。ポールさんは虐待や拷問についてつぎのように話しています。

口からホースで水を入れ、一杯になると、上から腹に飛び乗った。ある時は膝の後ろに竿を入れて正座させ、頭の上に水を入れたバケツを持たされたこともあった。日本人鉱夫の数人と自分達捕虜が数人のチームを組んでいたが、作業は辛かった。

ポールさんは帰国しても悪夢にうなされることが多く、大声で叫んだり、大汗をかいったりで、妻を驚かせたといいます（POW研究会調査、2017年、家族証言）。



2011年10月、東京で開かれた「元アメリカ兵捕虜・家族との交流会」。三井三池炭鉱に連行されたロイ・エドワード・フリースさん、ハリー・コーレさんも参加。日本政府の招待で来日、市民と交流。

3

強制労働の現場 製鉄所、造船所、炭鉱



『石炭統制会報』（1944年3月）の裏表紙

八幡製鉄所：日清戦争での賠償金で建設



八幡製鉄所溶解炉全景写真（製鉄所共済組合購買部『写真帖』1932年）

日清戦争の戦場となった朝鮮

右の写真は「朝鮮安城渡ノ激戦之図」という日清戦争を描いた錦絵です。1894年7月29日、日本軍は朝鮮の成歓にいた清軍を攻撃するため、ソウルから約60km南に位置する安城川を渡ろうとしました。日本は朝鮮に対する清の影響力を排除し、朝鮮の支配権を確保するために、日清戦争を引き起こしました。日本は朝鮮王宮を占拠し、東学農民軍を攻撃しました。日清戦争の主な戦場は朝鮮半島でした。



戦争によって成長した八幡製鉄所

日清戦争で勝利した日本は、清から莫大な賠償金を受け取りました。清が支払った2億両（テール）は、当時、日本の4年分の国家予算に相当する金額でした。賠償金の8割は軍備拡張に使われ、残りの2割は官営八幡製鉄所の建設や鉄道、電信・電話事業などに投資されました。賠償金はポンドで支払われ、それを利用して日本は金本位制を確立しました。

官営八幡製鉄所の操業は1901年です。操業の安定に10年かかりました。八幡製鉄所は、日本の重工業の発展を支え、1906年には国内の鉄鋼生産の9割を占めました。原料の鉄鉱石は中国の大冶鉱山などから輸入されました。八幡製鉄所は、石炭供給のために筑豊の炭鉱を買収し、官営八幡製鉄所二瀬出張所（二瀬炭鉱）としました。



第一高炉建設中に訪れた伊藤博文ら一行の記念写真（八幡製鉄所旧本事務所眺望スペース、2017年9月）



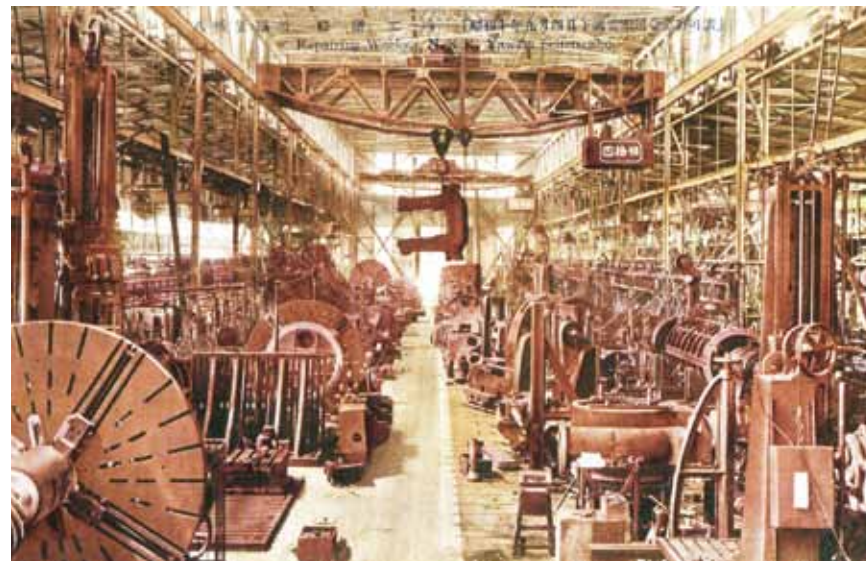
二瀬炭鉱（『写真帖』）

二瀬炭鉱では1903年1月、潤野坑での火災事故で64人、1913年2月、中央堅坑でのガス爆発事故で101人の死者が出ました。

火が消えた溶鉱炉、労働者の権利闘争

八幡製鉄所は東洋一の製鉄工場となりましたが、労働者の生活は苦しいものでした。1日12時間の2交替制であり、賃金は低かったのです。第一次世界戦争後は世界各地で民主主義と権利の意識が高まりましたが、八幡の労働者のなかにも権利の意識が芽生えました。1919年、八幡で働いていた西田健太郎が食堂で、8時間労働制、労働条件改善、環境改善などを呼びかけました。嘆願書が出されましたが、要求は実現できませんでした。その後、西田と浅原健三は労働組合である日本労友会を結成し、1920年2月、2波のストライキを決定して、実働8時間、賃上げ、厚生施設の改善などを実現しました。

1923年には八幡区枝光で北九州機械鉄工組合が結成され、のちに日本労働総同盟九州連合会へと改組されました。1928年の衆議院の普通選挙で、浅原健三は無産政党の九州民憲党から出て、当選しました。中国への侵略戦争をすすめた日本政府は、労働運動を弾圧しました。



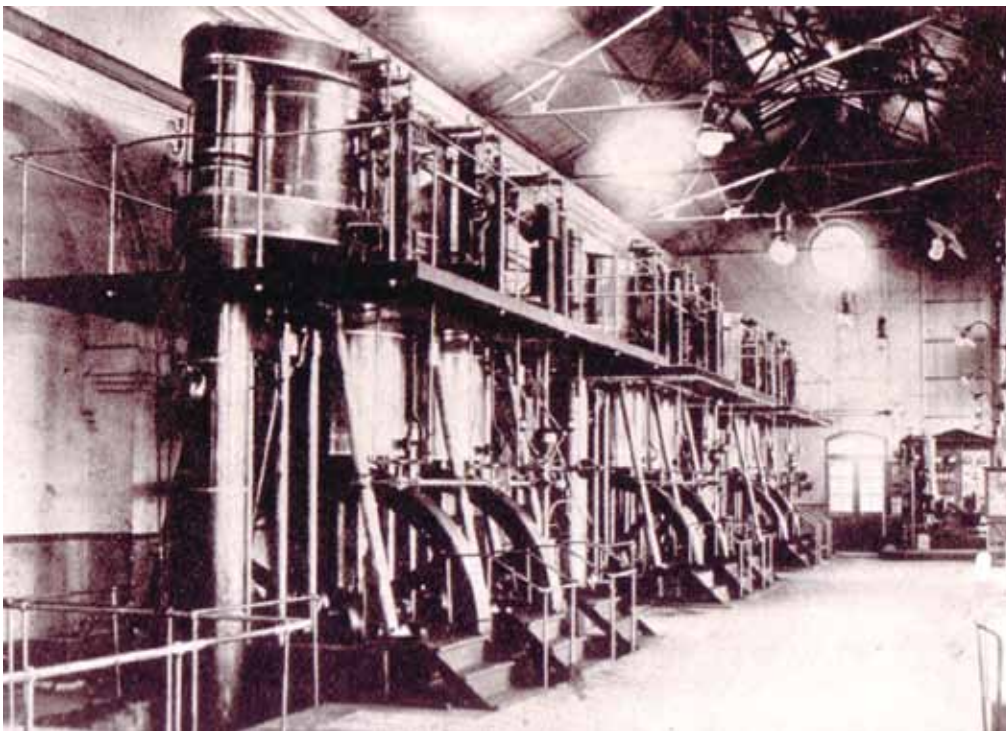
修繕工場の内部（1935年、葉書）

戦争の拡大と鉄鋼生産の増加

日本の中国への侵略戦争の拡大により、鉄鋼の需要が増えました。日本政府は1934年に八幡製鉄所を中心に官民の製鉄業を合同させ、独占企業である日本製鉄を設立しました。1937年に日中戦争が始まると、翌年、日本軍は中国の大冶鉄山を占領し、日本製鉄の所有とし、大量の鉄鉱石を八幡に輸送しました。1945年の敗戦まで日本は、八幡製鉄所で生産した鉄鋼で軍艦や魚雷、戦闘機などを製造しました。

日本製鉄八幡製鉄所は、戦争による鉄鋼生産のために、各地から労働力を動員しました。植民地朝鮮から朝鮮人を強制動員し、製鉄工場に4,000人、港運に4,000人、二瀬炭鉱に4,000人を配置したのです。八幡製鉄所に動員された朝鮮人は12,000人を超えます。八幡では、中国人が八幡港運に201人、二瀬炭鉱に805人、連合軍捕虜が製鉄工場に約1,350人、二瀬炭鉱に600人が連行されました。





遠賀川水源ポンプ室の内部（『写真帖』）

日本の敗戦後、占領下での財閥解体により、日本製鉄は1950年に八幡製鉄、富士製鉄、播磨耐火煉瓦、日鉄汽船の4社に分割されました。けれども1970年に八幡製鉄と富士製鉄は合併し、新日本製鉄となりました。さらに2012年、新日鉄は住友金属と合併して新日鉄住金となりました。八幡製鉄所はその傘下にあります。

釜石と製鉄

「明治日本の産業革命遺産」には、岩手県釜石の橋野鉄鉱山跡（日本最初の洋式高炉跡）が入っています。この鉱山跡は幕末に開発されたものです。高炉をつくり、鉄鉱石を溶かして、銑鉄を生産したのです。1880年、政府は官営の釜石製鉄所を設立しました。日本で最初の製鉄所です。1883年の払い下げにより、釜石鉱山田中製鉄所となります。

日中戦争後、日鉄鉱業釜石鉱山と日本製鉄釜石製鉄所でも強制動員がありまし

た。釜石製鉄所は1945年7月・8月と米軍による2度の艦砲射撃を受け、破壊されました。この艦砲射撃による死者は1,000人を超えるとみられ、朝鮮人や連合軍捕虜も亡くなっています。

動員された朝鮮人数は、釜石鉱山と釜石製鉄所を合わせると2,200人ほどとみられます。死亡者については釜石鉱山で18人、釜石製鉄所で39人分が判明し、他に死者13人が判明しています。

1995年9月、釜石製鉄所に強制動員され、艦砲射撃などで亡くなった朝鮮人の遺族が、国と新日本製鉄に対し、遺骨の返還、未払い金の返還、慰謝料の支払い、謝罪広告の掲載などを求めて提訴しました。新日本製鉄は1997年、裁判外で遺族と和解をすすめ、計2005万円と慰霊費を負担しました。

中国人は、釜石鉱山に1944年11月に197人、45年2月に91人の計288人が連行されました。このうち123人が死亡しています。連合軍捕虜は釜石製鉄所に401人、鉱山に410人の約800人が労働を強制されました。死者は65人、このうち米軍による釜石への艦砲射撃による死者が34人います。



釜石鉱山



橋野鉄鉱山の高炉跡



1997年10月2日、韓国でおこなわれた釜石犠牲者追慕祭。日本での訴訟は、日鉄釜石訴訟は和解したが、日鉄大阪訴訟は敗訴した。韓国では大法院の判決を待っている状況である。

17歳で八幡製鉄所に強制動員された金圭洙さん

金圭洙さんは、1943年1月頃、全羅北道群山から八幡製鉄所へ連行されました。福岡県の戸畑港に到着するまで、どこに何をしに行くのかも知らされませんでした。妙見で2週間、精神教育、軍事訓練などを受けた後、工場で使われる原材料や生産品などを積み出す線路の分岐部分のポイント操作と管理の仕事に配置されました。1日2交替勤務で、外出や個人行動は許されませんでした。



幼くして慣れない異郷の地に強制動員され金圭洙さんは、空腹と寂しさで泣いて過ごしました。3か月が過ぎた頃に同僚と一緒に逃亡しましたが、捕まって数日間殴られながら取り調べを受けました。会社から賃金に関する説明はありませんでした（2007年6月15日、証言）。

徴用と徴兵、2度も強制動員された朱錫奉さん

朱錫奉さんは、1943年、19歳の時に全羅北道全州から八幡製鉄所へ連行されました。行かなければ配給が止められ、家族が食べていけなくなるので、避けられませんでした。八幡製鉄所では、シャベルで石炭を移す仕事をしました。1日3交替でした。朝鮮人は技術を習得できる場所に配置されませんでした。朝鮮人を民度の低い民族として差別する雰囲気でした。配給量が少なく、いつも空腹で辛い思いをしました。近くの溶鉱炉で働かされていた連合軍捕虜は道端に捨てられたミカンの皮まで拾って食べていました。

朱錫奉さんは「徴用」の印がつけられた作業服を着ていたので、遠くへ逃げることもできませんでした。逃げて捕まれば死ぬほど殴られたといいます。賃金は故郷へ送金すると言ってくれませんでした。最も辛かったのは空腹で、最も恐ろしかったのは空襲でした。八幡一帯の軍需工場では空襲が頻繁にあり、とても不安な毎日を過ごしました。20歳になった後に徴兵され、八幡製鉄所を離れました



（2009年9月17日、証言）。

金圭洙さん、朱錫奉さんなど、強制動員された韓国人被害者12名は、新日鉄住金（日本製鉄八幡製鉄所の後継会社）に謝罪と賠償を要求し、今も裁判が続いています。2005年から3件の裁判が提訴されましたが、現在までに6名が死亡し、3名も年老いたため陳述が難しい状態です。

17歳で八幡製鉄所に強制動員された李天求さん

李天求さんは、1942年9月頃、忠清南道舒川から八幡製鉄所に連行されました。村の職員（戸籍係）が巡查と一緒にやってきて、何日までに村役場に来るように言いました。逃亡すれば親に苦痛を与えることになるので、応じざるを得ませんでした。八幡製鉄所では、アンモニア肥料を生産する場所で働きました。当時、連合軍捕虜も酷使されていました。1943年、李天求さんは八幡製鉄所を脱出し、今村製作所若松工場で働きました。



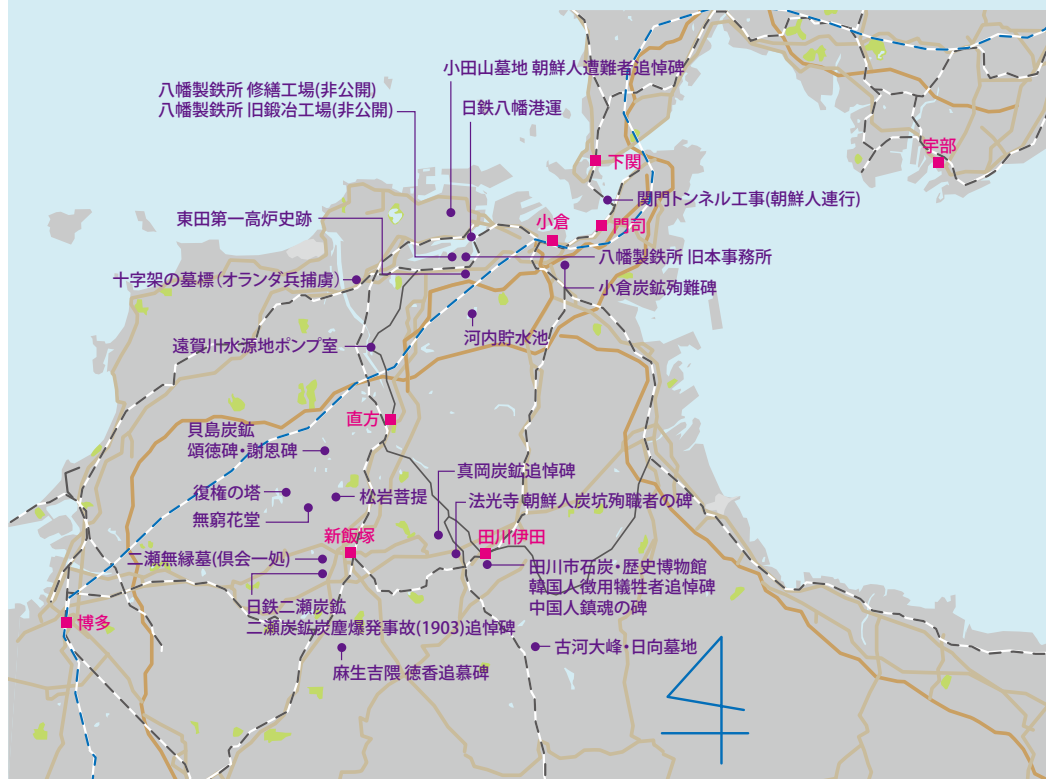
強制動員された当時の李天求さん

朝鮮が日本の植民地支配から解放された時、帰国のために下関に行きましたが、乗船券を手に入れることができませんでした。下関にはたくさんの人が集まっていました。飢えたり、病気にかかったり、伝染病で死亡する人がたくさんいました。

死体を片づければ乗船券を早くやると言われ、10日間その仕事をして乗船券を手に入れ、帰国しました（日帝強占下強制動員被害真相糾明委員会『強制動員口述記録集③』2006年）。



八幡製鉄所・筑豊炭田関連MAP



関連施設案内



無窮花堂

2000年12月、在日筑豊コリア強制連行犠牲者納骨式追悼碑建立実行委員会（現、無窮花堂友好親善の会）によって飯塚市営飯塚霊園内に建立された納骨堂。周囲に強制連行の歴史を刻んだ歴史回廊がある。



住所 飯塚市庄司1594-1 **交通** JR「新飯塚駅」前からJR九州バスで「笠置橋」停留場下車、徒歩5分 **開閉時間** 午前8時30分～午後5時 **休園日** 年末年始 **入場料** 無料



田川市石炭・歴史博物館

筑豊随一の規模を誇った三井田川鉱業所伊田竪坑の跡地にある博物館（1983年オープン）。約15,000点の石炭関連資料、2011年に世界記憶遺産に登録された山本作兵衛の炭鉱記録画などを所蔵。

公園に韓国人徴用犠牲者慰霊碑、強制連行中国人を追悼する「鎮魂の碑」がある。



住所 田川市大字伊田2734-1 **交通** JR・平成筑豊鉄道「田川伊田駅」から徒歩8分
開館時間 午前9時30分～午後5時30分（入場は午後5時まで） **休館日** 毎週月曜日、年末年始
入館料 一般400円 高校生100円 小・中学生50円



八幡製鉄所 旧本事務所（眺望スペース）

1899年竣工、1922年まで八幡製鉄所の本事務所として使用された建物。普段は眺望スペースからのみ見学可能。



住所 北九州市八幡東区枝光 **交通** JR「スペースワールド駅」から徒歩10分 **開業時間** 午前9時30分～午後5時（入場は午後4時30分まで） **休業日** 毎週月曜日
見学科 無料 ✓ ボランティアガイド常駐。



遠賀川水源地ポンプ室（眺望スペース）

1910年に操業を開始した官営八幡製鉄所への送水施設。現在も稼働中、内部は非公開。展示パネルが設置された眺望スペースから見学。



住所 中間市土手の内1-3-1 **交通** JR「筑前垣生駅」から徒歩約25分 **開業時間** 通年 **見学科** 無料 ✓ 土・日曜、祝日の午前10時から午後4時まではボランティアガイド常駐。



東田第一高炉史跡

1901年に操業を開始した官営八幡製鉄所の第一高炉。現存のものは1962年から1972年まで操業したもの。史跡公園として公開、展示パネルもある。



住所 北九州市八幡東区東田2-3-12 **交通** JR「スペースワールド駅」から徒歩5分
開業時間 午前9時～午後5時 **休業日** 年末年始 **入場料** 無料

三菱長崎造船所：魚雷・軍艦の生産と原爆



戦艦土佐を建造する三菱長崎造船所

「三菱がある場所に戦争がある」

三菱は日本帝国主義が引き起こした侵略戦争とともに成長した代表的な財閥です。三菱の鉱業と重工業は戦争の遂行になくてはならないものでした。日本が侵略戦争を拡大するなかで、三菱長崎造船所では軍艦が82隻、魚雷は1万本以上が生産されました。「日本戦艦の誇り」と宣伝された武蔵や真珠湾奇襲に使われた魚雷は長崎で製造されたものでした。

江戸幕府は開国のころ、オランダの指導で海軍伝習所と艦船の修理をする長崎熔鉄所をつくりました。この長崎熔鉄所が長崎造船所のはじまりです。明治政府は官営とし、長崎造船局としました。

小さな商会から軍需財閥へと急成長

岩崎弥太郎は1873年に三菱商会をつくり、1874年の台湾侵略では、長崎港に船を調達し、兵士を乗せて運ぶなど、海運業で利益をあげました。1881年に高島炭鉱を獲得し、1884年に長崎造船局の委託を受けて長崎造船所として経営するようになりました。長崎造船所は1887年に三菱に払い下げとなりました。三菱は、海運、石炭、造船で利益をあげ、三菱財閥として成長しました。





1896年に第二船渠、1905年に第三船渠ができ、1909年にはジャイアント・カンチレバークレーンをイギリスから購入しました。1934年に三菱重工業が設立されると、三菱重工業長崎造船所となりました。三菱重工業は、造船と航空機の生産を担う日本最大の軍需企業でした。その造船の拠点が長崎の工場です。日本が侵略戦争を拡大していった時期、三菱重工業傘下の兵器、製鋼、造船、電機の工場が長崎市の浦上川沿いに建ち並び、造船所の大きな工場が長崎の湾に沿って続いていました。三菱長崎造船所では軍艦や魚雷、三菱名古屋航空機では軍用機、三菱東京では戦車などを製造しました。三菱重工業は、中国東北に三菱機器工場、台湾に船渠を持ちました。

資源と人の強制収奪

アジア太平洋戦争期、戦争の拡大とともに、三菱はアジア各地で資源を収奪し、現地の民衆を酷使しました。三菱重工業長崎造船所には約6,000人の朝鮮人が強制動員されました。三菱長崎兵器、三菱長崎製鋼、三菱長崎電機、地下工場建設、港湾輸送などにも朝鮮人が強制動員されました。

長崎に原爆が投下された際、強制動員された朝鮮人が数多く被爆しました。しかし、当時、朝鮮人がどれほど犠牲になったのか、その正確な人数は今も明らかになっていません。30万人余りの被爆者のうち、1割が朝鮮人だと言われています。

三菱長崎造船所には連合軍捕虜も動員されています。長崎造船所の近くにあった



イージス艦を修理している三菱長崎造船所（2003年）

川南工業の造船所にも朝鮮人と連合軍捕虜が動員されました。

明治期から原爆投下の日まで、長崎は兵器生産の都市でした。現在も、三菱長崎造船所では海上自衛隊のイージス艦をはじめ、軍需生産がおこなわれています。

1944年、長崎造船所に強制動員された金漢洙さん

一人息子で就職をすれば徴用されないと聞いた金漢洙さんは、塩をつくる延白専売支局に就職しましたが、1944年8月、長崎造船に連行されました。黄海道延白では200



2010年6月に行われた金漢洙さんの証言集会（飯塚市）

名が集められました。全員、汽車で釜山に連れて行かれ、連絡船で下関に運ばれました。寮に入れられ、軍隊のような精神教育と軍事訓練を受けました。日本人の小隊長は教育時間になると日中戦争の際に中国で引き起こした強姦、虐殺の話を公然としながら威圧感を与えました。

金漢洙さんは、銅や亜鉛のメッキ工場で労働させられました。チェーンが切れて足の指が折れ、病院に行きましたが、注射1本を打たただけで休ませてもらえず、足が腫れた状態で働き続けました。

長崎の爆心地から3.2キロメートルの地点で作業していた時に被爆しましたが、分厚い鉄板が体全体を覆い、幸いにも命は助かりました（日帝強占下強制動員被害真相糾明委員会『私の体に刻まれた8月』2008年）。

監視と統制の中で労働を強いられた金順吉さん

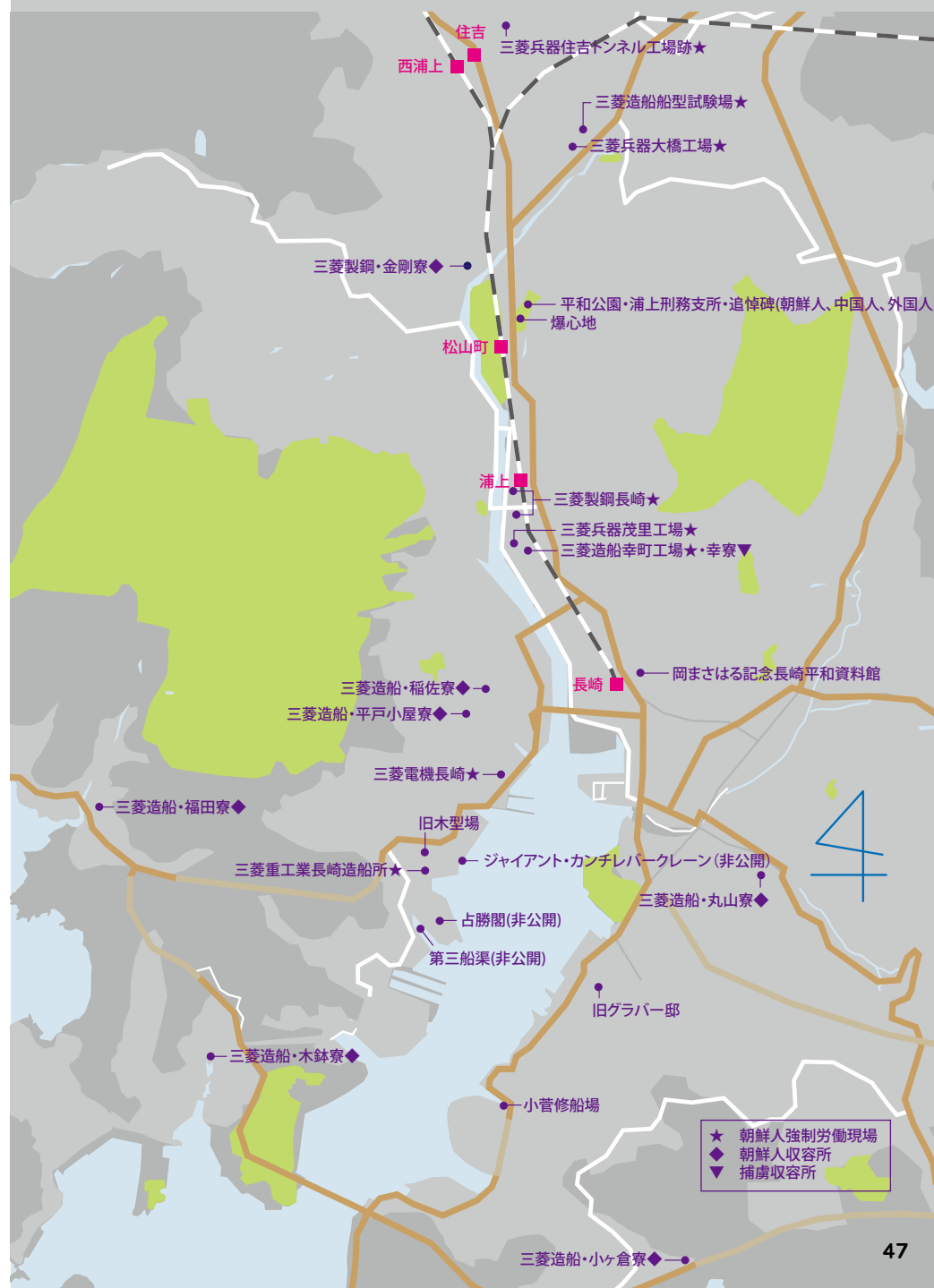
金順吉さんは慶尚南道の生業統制組合の書記として働きながら家族を養っていました。1944年12月、徴用令状を受け取った後、徴用から逃れるために隠れて過ごしていました。翌年1月、警察に捕まり、釜山府庁総力課と三菱の職員に引き渡されました。そして翌日、釜山から連絡船に乗せられ、三菱長崎造船所に連行されました。

長崎造船所では、造船工作部輔工係の水上遊撃班員とされました。寮は外部と遮断されていました。海軍の歩哨が巡視し、憲兵が常に監視と統制をしていました。徴用された人たちには、3か月後から、決められた賃金の外に家族手当、皆勤手当、残業手当など、いくつかの手当が支給されることになっていましたが、退職積立金、国民貯蓄などの名目で控除され、ほとんど現金を受け取ることができませんでした。

1945年8月9日、トンネル工作用鉄材の運搬作業中に被爆し、地獄のような長崎のありさまを見て、生きて帰ろうと決意しました。同胞数人と長崎を脱出し、釜山の岸壁に到着しました（金順吉・三菱長崎造船所損害賠償請求訴訟資料）。



長崎造船所関連MAP



関連施設案内



岡まさはる記念長崎平和資料館

1995年、日本の戦争責任、加害の史実の発掘に生涯をささげた故岡正治氏の遺志を継ぎ、日本の加害の歴史を語り継ぐために長崎市民によって設立された博物館。



住所 長崎市西坂町9-4 **交通** JR「長崎駅」から徒歩5分 **開館時間** 午前9時～午後5時 **休館日** 毎週月曜日、年末年始 **入館料** 大人250円 高校生以下150円 幼児無料



三菱兵器住吉トンネル工場跡

アジア・太平洋戦争末期に造られた三菱重工業長崎兵器製作所の疎開工場。西松組が請け負った。長崎市は、市民の要請を受け、朝鮮人強制労働について記した案内板を設置。



《動員された人々》
記録や当時の写真を見る人々の話によると、当時の長崎には、軍需工場が多数あり、学徒、勤労隊、戦時作業員が動員されて各地で働いていました。
トンネル工場では軍需の管轄下で兵器(弾薬)生産に携わる作業が行われており、その作業に動員された人達が連行してました。
トンネル工場周辺には工場として動員された人達のための寮が建てられていました。また、土木工事をする人達のための設備がいくつかあり、その居住者の多くは朝鮮人労働者でした。
その中には、強制的に動員された者もありトンネルの掘削工事で過酷な労働に従事していました。彼らは3交代で、発掘後のトンネル内での掘削作業や、発掘により掘出される土や石をトラックで搬出した後、トラックに積みこみ運ぶような重労働を主にしていたと語られています。



Mobilized Workers
According to records and photos seen by visitors, there were many military factories in Nagasaki at that time. Students, laborers, and war workers were mobilized to various places to work. At the tunnel factory, weapons (ammunition) production was carried out under military control, and workers were mobilized for the work. Around the tunnel factory, there were dormitories for workers mobilized for the work. In addition, there were facilities for civil engineering workers. Many of the workers were Koreans who were forced to work. Some of them were mobilized for the tunnel construction work, and some were mobilized for the work of digging and transporting soil and stones. They were working in a 3-shift system, and they were doing heavy work such as digging and transporting soil and stones by truck. They were doing this work in a very harsh environment.

強制的に動員された人々
記録や当時の写真を見る人々の話によると、当時の長崎には、軍需工場が多数あり、学徒、勤労隊、戦時作業員が動員されて各地で働いていました。トンネル工場では軍需の管轄下で兵器(弾薬)生産に携わる作業が行われており、その作業に動員された人達が連行してました。トンネル工場周辺には工場として動員された人達のための寮が建てられていました。また、土木工事をする人達のための設備がいくつかあり、その居住者の多くは朝鮮人労働者でした。その中には、強制的に動員された者もありトンネルの掘削工事で過酷な労働に従事していました。彼らは3交代で、発掘後のトンネル内での掘削作業や、発掘により掘出される土や石をトラックで搬出した後、トラックに積みこみ運ぶような重労働を主にしていたと語られています。

住所 長崎市住吉町18 **交通** JR「長崎駅」前から路面電車まで「住吉」電停下車、徒歩5分 **開業時間** 通年 **見学科** 無料



小菅修船場

1869年、薩摩藩とスコットランド出身のグラバーによって建設された船舶修理施設。1887年、三菱の所有となり、1953年、閉鎖。



住所 長崎市小菅町5 **交通** JR「長崎駅」前から長崎バスで「小菅町」停留場下車、徒歩1分 **開業時間** 土・日曜、祝日の午前10時～午後4時 **見学科** 無料 ✓ ボランティアガイド常駐。



平和公園

爆心地とその周辺、長崎刑務所浦上刑務支所跡に設けられた公園。1979年、長崎在日朝鮮人の人権を守る会によって建てられた朝鮮人被爆者追悼碑、1981年に建てられた外国人戦争犠牲者追悼・核廃絶人類不戦の碑、2008年に建てられた中国人原爆犠牲者追悼碑などがある。



住所 長崎市松山町9 **交通** JR「長崎駅」前から路面電車で「松山町」電停下車、徒歩3分 **開業時間** 通年 **入園料** 無料



三菱造船所旧木型場

1898年、鋳物製品の需要増大に伴い建設。1985年、長崎造船所史料館として改装、一般公開。動力工作機械や巨大なエンジンやタービンの実物、写真パネルなど約900点を展示。



住所 長崎市飽の浦町1-1 **交通** 事前予約の上、JR「長崎駅」前から史料館専用シャトルバスにて移動（1日6便運行） **利用時間** 午前9時～午後4時30分 **休館日** 毎月第2土曜日、年末年始 **入館料** 大人800円 小・中学生400円



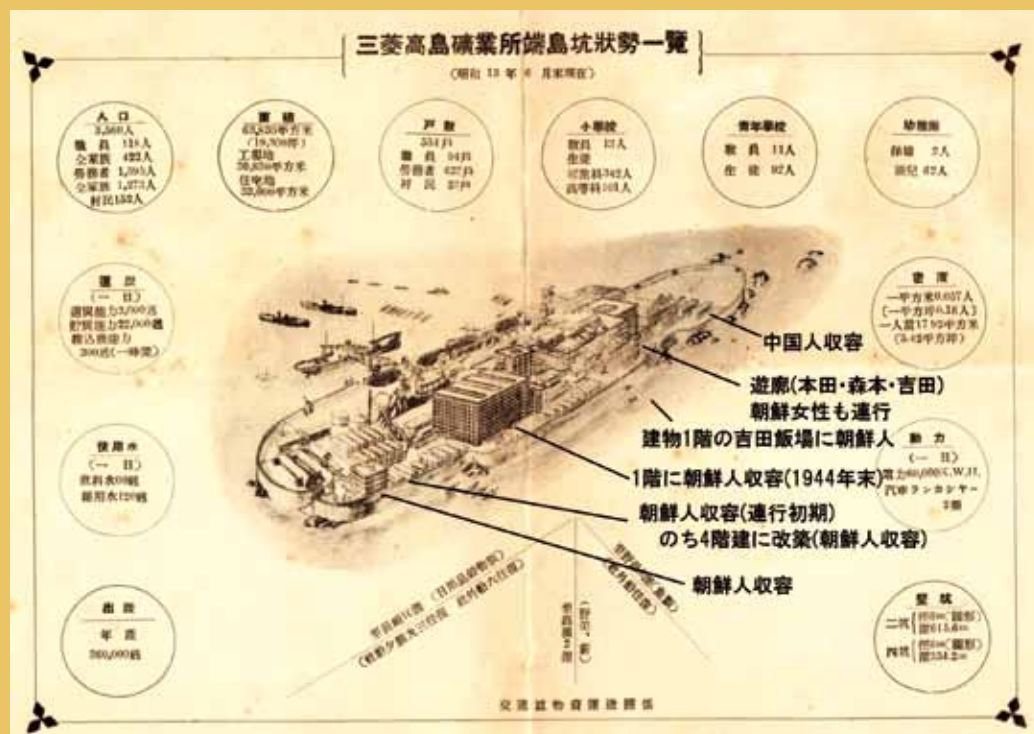
旧グラバー邸

1863年に建設されたグラバーの住宅。グラバーは武器輸出で利益をあげた貿易商。対岸に長崎造船所を眺望できる高台に位置。1939年、戦艦武蔵を建造していた三菱重工業が買収、1957年、長崎市に寄付。



住所 長崎市南山手町8-1 **交通** JR「長崎駅」前から路面電車で「大浦天主堂下」電停下車、徒歩8分 **開園時間** 午前8時～午後6時（季節による変動あり、最終入場は20分前まで） **休園日** なし **入園料** 大人610円 高校生300円 小・中学生180円

高島・端島の炭鉱：三菱鉱業の「圧制のヤマ」



「三菱高島礦業所端島坑状勢一覽」に加筆

受刑者も使用した高島

高島は長崎港から約14.5キロメートル先、端島はさらに4キロメートル沖にあります。高島では18世紀はじめから石炭が採掘されました。高島炭鉱の開発は日本の近代化とともにすすみ、1868年には佐賀藩とグラバー商会によって経営されるようになりました。グラバーは高島に西欧の採炭技術を導入し、その技術は筑豊や北海道での採炭にも利用されました。1874年には官営となり、受刑者の労働による採掘がおこなわれました。1881年に三菱が高島を経営するようになり、1890年には端島を所有しました。

暴力的な労務管理を続けた三菱

高島炭鉱では多くの労働者が生命を失っています。三菱経営後の1885年にはコレラが流行し、561人が死亡しました。衛生状態は悪く、坑夫への暴行や事故も多かったのです。

坑夫による抵抗が何度もおきました。高島炭坑は「圧制のヤマ」として知られるようになりました。ジャーナリストの松岡好一は斡旋業者を通じて高島炭鉱に入り込み、1888年6月、政教社の機関誌『日本人』に「高島炭鉱の惨状」を書きました。この高島炭鉱での3,000人の坑夫への圧制は社会問題になりました。

暴力的な労務管理のなかで、労働者の中に抵抗意識が生まれ、1897年には高島と端島でストライキがおきました。1906年の高島炭鉱の蛸瀬坑の事故では307人が死亡しました。労災事故は絶えることなくつづきました。三菱経営になってから、敗戦までの労災や病気による死亡者は1,000人をこえました。

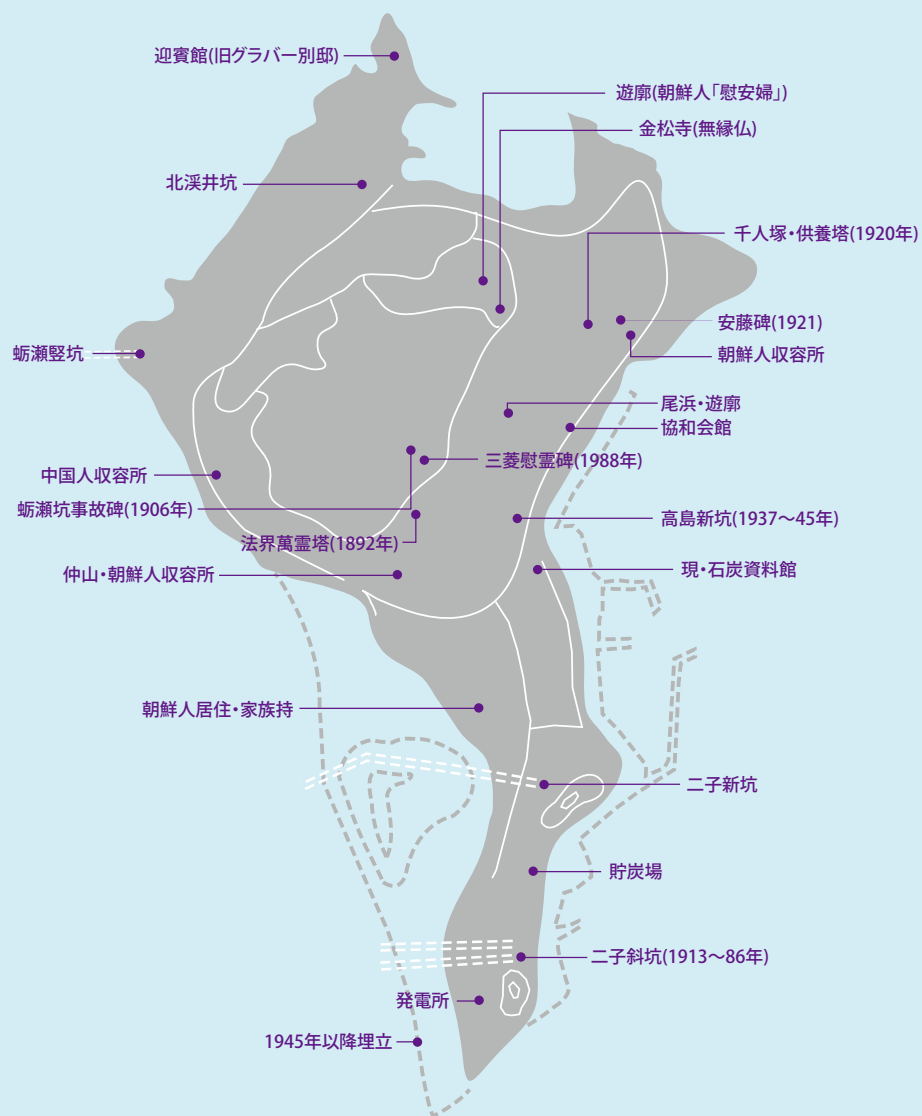


無縁の白骨が入っていた墓地・千人塚の供養塔とその内部（1920年建立、高島炭鉱労働組合『30年史』1977年）。端島閉山後、端島の遺骨もここに集められたが、高島閉山により納骨堂は破壊され、遺骨は金松寺に集められた。朝鮮人の遺骨もあったとみられる。



高島の配置図

4



端島と中ノ島、高島 (2017年9月)。端島は、東西約160メートル、南北約480メートル、周囲1.2キロメートルに過ぎない小さな島。

低賃金労働力を求めて植民地へ

三菱高島炭鉱は労働者不足のために日本各地で募集をすすめましたが、1917年9月21日に朝鮮での募集の認可をうけ、約150人を高島炭鉱へと連れてきました。三菱は朝鮮での募集を続けるため、朝鮮内に募集人を配置しました。

朝鮮人の死傷者も増えるようになり、1918年5月の二子坑でのガス爆発事故では2人の朝鮮人が負傷しました。高島の蛸瀬坑で1919年2月に墜落死、12月には落盤事故もおきました。



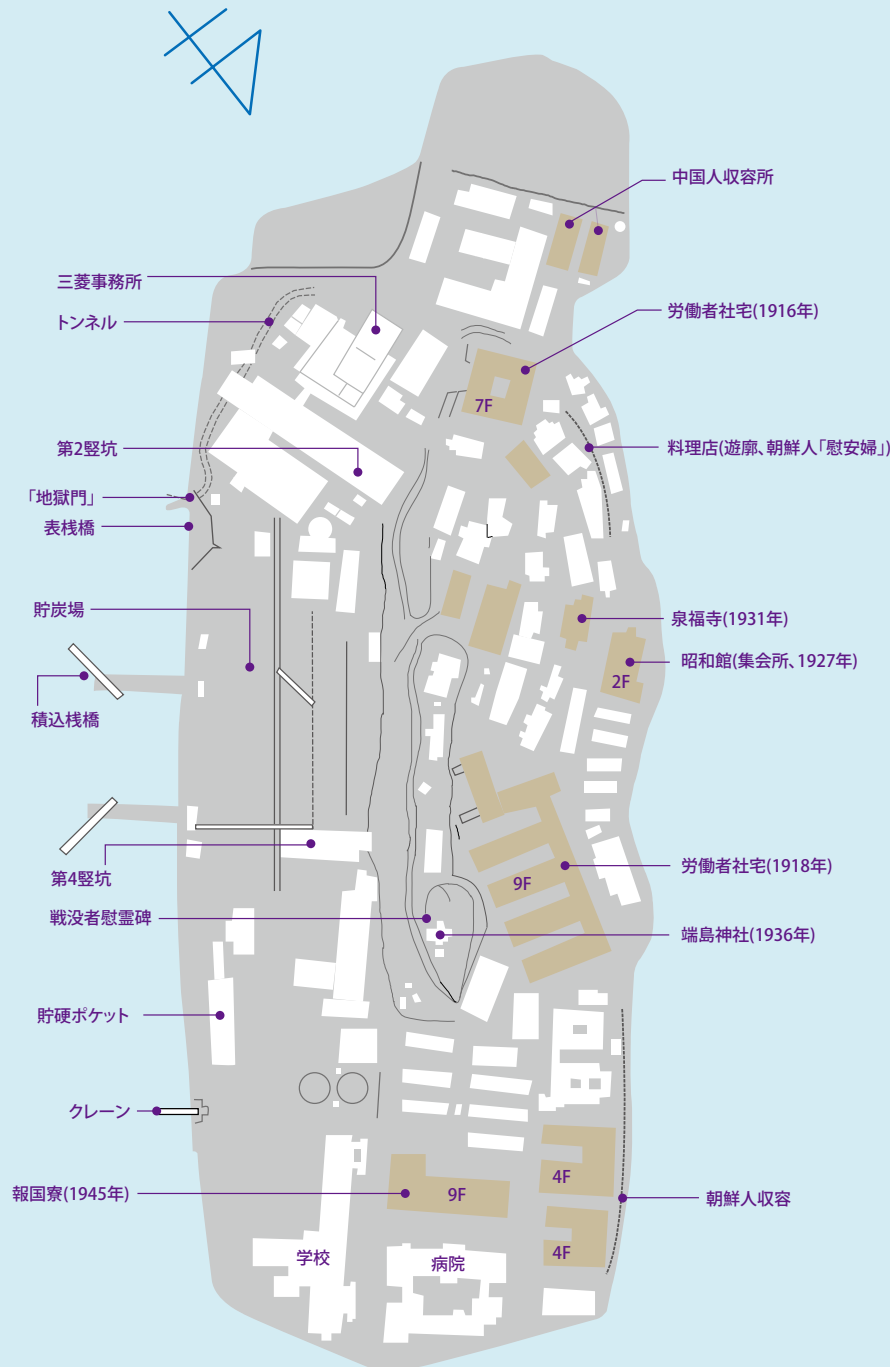
1906年の蛸瀬坑罹災者招魂碑
(『30年史』)



炭全額蛸坑炭島高外港崎長



端島の配置図（1945年頃）



高層アパートが建ち並んだ「軍艦島」

端島は軍艦のように見えることから「軍艦島」とも呼ばれています。端島全体が炭鉱であり、海底のあちこちに坑道が広がっています。端島での採掘は近代になってはじめられ、鍋島孫六郎が1887年に第1竖坑を開坑しました。その後、1890年から炭鉱経営が三菱に移りました。第2竖坑は1895年に、第3竖坑が1896年に、第4竖坑が1925年に開坑しました。端島の石炭は八幡製鉄所の製鉄用原料炭にも使われました。

炭鉱施設の拡充とともに埋立と護岸工事がすすめられました。炭鉱労働者用の居住施設が建設され、1916年以後、鉄筋コンクリートによる9階、7階などの高層アパートができました。海が荒れると9階にまで、波が飛ぶこともありました。人口が最も多かった1960年には、この小さな島に5,300人もの人びとが暮らしていました。



端島坑島瞰（1938年頃）

死んでようやく抜け出すことができた「地獄島」

1939年以降、高島炭鉱（高島・端島）には4,000人ほどの朝鮮人が強制動員されました。強制動員された朝鮮人にとって、ここは、鉄格子のない監獄であり、恐ろしい労働現場でした。

栈橋近くに残る門は「地獄門」と呼ばれ、周囲の高い堤防は逃亡を止める壁の役割もはたしていました。逃亡は困難であり、連行された人びとにとって「地獄島」でした。



朝鮮人を収容した4階建ての建物とその地下

端島に強制動員された朝鮮人は北方の4階建ての建物などに収容されました。1939年から45年にかけて端島には1,000人をこえる朝鮮人が動員されたとみられます。火葬関連文書によって確認された死亡者は50人ほどです。死亡者は半分以上が事故死でした。

原因は埋没による窒息、圧死、外傷死であり、溺死もありました。動員された朝鮮人は劣悪な労働条件と暴力の中で死闘の毎日を送らねばならなかったのです。強制動員の生存者は、「あまりにも辛く、島を出て行こうと身体切断まで考えた」と証言しています。1945年8月、長崎に原爆が投下された後、長崎市内の復旧作業に投入され、被爆した朝鮮人もいます。

1943年、全羅北道金堤から端島へ強制動員された尹椿基さん

尹椿基さんは、病棟裏の建物に入れられました。賃金の3分の1は強制貯金され、3分の1は故郷に送金すると言われましたが、帰国してみると送金されていませんでした。食事は外米のごはんと汁だけでした。ごはんにはこぶし位のイモが入っていたので、それをのぞくとスプーン3杯程度でした。低い天床の下で、1日3交替で働かされ、3人1組で、1日のノルマはトロッコ10台以上とされました。

1945年8月15日、日本の敗戦後、お金を出しあって闇船を買い、馬山の港に着くことができたといいます（『百万人の身世打鈴』1999年）。

14歳の時に端島へ強制動員された崔璋燮さん

崔璋燮さんは1943年に全羅北道益山から端島に連行されました。郡守（日本の市長にあたる）が「なぜこんな子供を連れてきたのか」と職員をしかりつけましたが、「人数を満たすため」ということで翌日汽車で釜山に運ばれました。端島がどんなところ



端島に強制動員された崔璋燮さん
(2016年7月)

か説明もなく、ただ良いところだと騙して、あの手この手で逃亡を防がれ、連行されました。

崔さんは、9階の建物の地下に入れられ、原田隊の第2中隊に属し、採炭現場での労働を強いられました。逃走して捕まったものはゴムのチューブで皮膚が剥げるほど叩かれ、拷問されました。抵抗の余地はなく、刑務所に閉じ込められているのと同じでした。

「人間の地獄がここだなと思った」といいます。原爆投下後の8月18日ごろに清掃のために長崎に行かされました（『（増補改訂版）軍艦島に耳を澄ませば』）。

基準に適合していない世界遺産

高島炭鉱では高島と端島の2つが「明治日本の産業革命遺産」の構成施設です。

しかし、高島の炭鉱関連の建物は、廃坑後、撤去されています。端島の建物は、ほとんどが1910年以降のもので、「産業革命遺産」の年代を1910年までと区切ったため、高島では北溪井坑跡、端島では明治期の竪坑跡と護岸遺構などが構成施設となりました。

高島と端島の全体が「産業革命遺産」とされているわけではないのです。ところが現在、「明治日本の産業革命遺産」のホームページでは、端島全体が産業遺産であるかのように紹介しています。



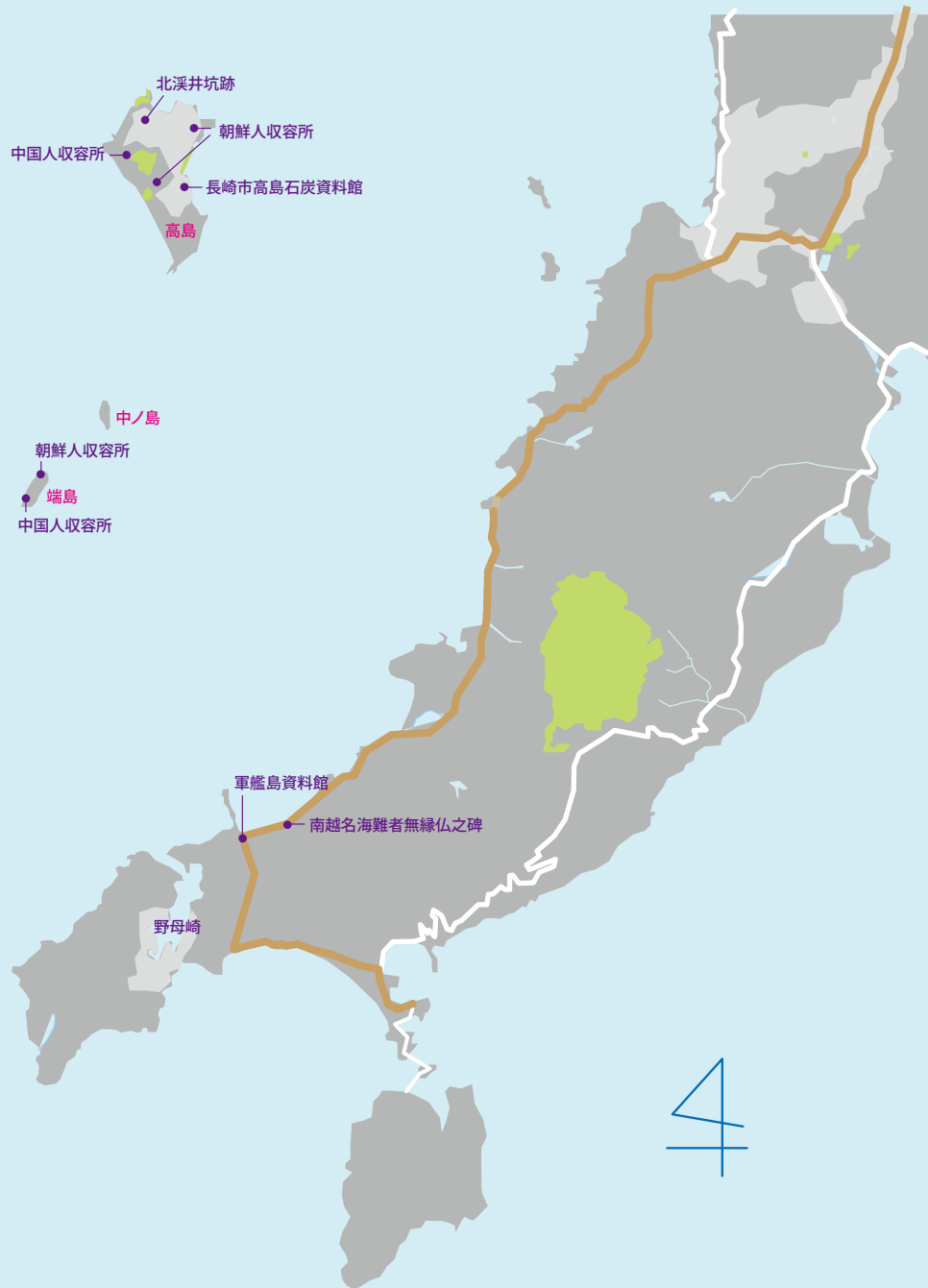
1970年代の高島・北溪井坑跡（『30年史』）



端島の護岸（2017年9月）



高島・端島関連MAP



関連施設案内



高島炭坑

1869年に開坑した日本最初の蒸気機関による豎坑（北溪井坑）。高島炭坑は1881年、三菱の所有となり、1986年に閉鎖。

住所 長崎市高島町 **交通** 長崎港ターミナルから高速船で約35分もしくは伊王島港ターミナルから高速船で約12分 **見学科** 無料



長崎市高島石炭資料館



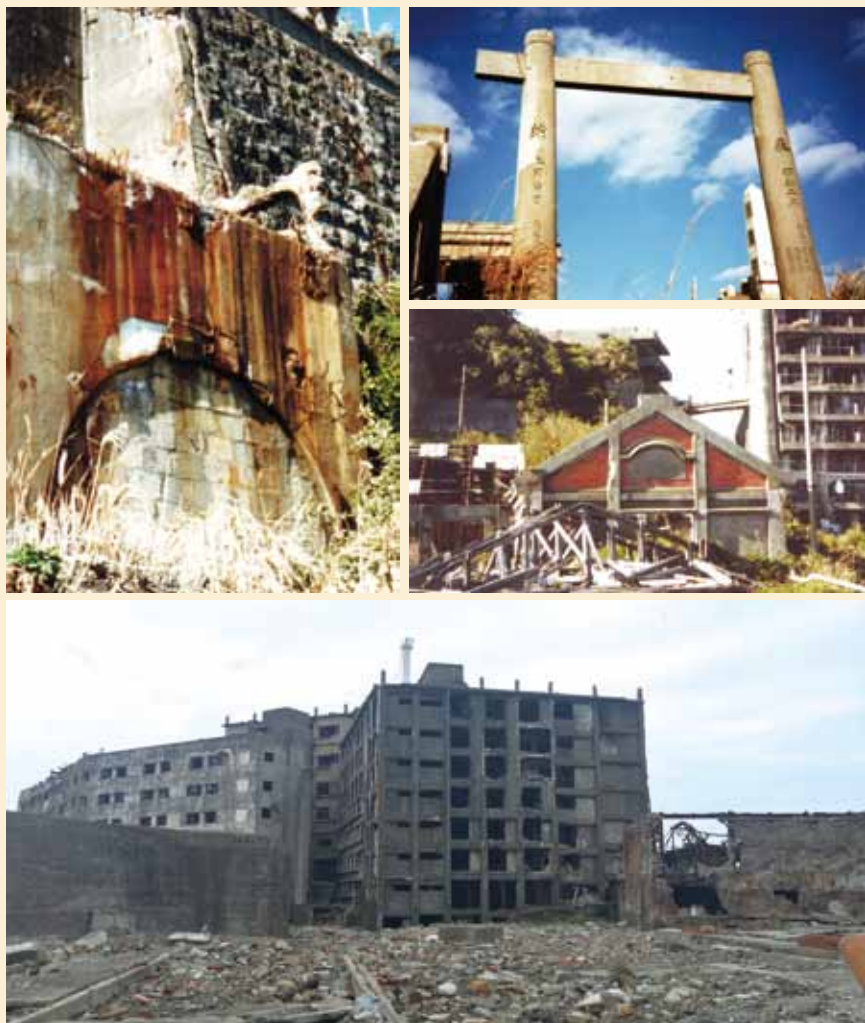
石炭資料を保存・展示する資料館。三菱高島炭坑労働組合の事務所を整備・改築、1988年オープン。高島炭鉱の歴史を展示、労働組合の旗などもある。

住所 長崎市高島町2706-8 **交通** 高島港から徒歩2分 **開館時間** 午前9時～午後5時 **休館日** 年末年始 **入館料** 無料



端島炭坑

1887年、第一堅坑を開坑、1890年、三菱の所有となった。1974年に閉鎖。2009年から一般に公開、長崎市所有。現在の見学コースでは、中国人収容所跡を見ることができる。



中国人収容所跡

住所 長崎市高島町端島 **交通** 上陸ツアーへの参加が必要。コース、運行日程、料金は各船会社によって異なる。 **見学科** 大人300円 小学生150円



軍艦島資料館、南越名海難者無縁仏之碑

2003年、「野母崎町郷土資料館」の半分を利用して開館。端島炭坑の世界文化遺産登録を機に、2016年、近くに移転、新展示、長崎市の運営となった。

軍艦島資料館から海岸沿いに長崎駅方面へ10分ほど（「南越」停留所からさらに先）歩いたところに「南越名海難者無縁仏之碑」がある。端島炭坑から流れ着いた遺体を発見した住民が遺骨を埋め、碑を建てた。1985年、「長崎在日朝鮮人の人権を守る会」が発掘、遺骨確認。



住所 長崎市野母町562 **交通** JR「長崎駅」前から長崎バスで60分、「運動公園前」停留所下車 **開館時間** 午前9時～午後5時 **休館日** 年末年始 **入館料** 一般200円 小・中学生100円

三池炭鉱：強制労働で成長した三井財閥の炭鉱



受刑者の労働で成長した三池炭鉱

九州は北海道とともに炭鉱の多い地域であり、三井鉱山が経営した三池炭鉱は日本で最大の炭鉱でした。日本政府は三池炭鉱で事業をはじめ、受刑者を使って採掘をおこなっていました。三井物産は三池の石炭を販売して利益をあげました。三井は1889年に政府から三池炭鉱を買収しました。



集治監跡 (2017年9月)

三池炭鉱での受刑者の強制労働は1873年の石炭運搬からはじまります。1883年、大浦坑で働かされていた福岡、長崎、熊本の受刑者が待遇改善を求めて「暴動」を起こしました。受刑者が帳簿に放火して煙が坑内に充満するや、炭鉱側は一般坑夫と受刑者を残したまま、坑口を封鎖しました。同年、三池炭鉱専用の監獄である三池集治監が設置され、受刑者は奴隷のように扱われました。受刑者による労働は1931年まで続けられ、死亡者数は2,400人を超えました。

三井財閥は貿易、銀行、鉱業、造船、鉄道などさまざまな産業で事業を展開し、日本最大の財閥になりました。政府の政策に積極的に加担し、三井財閥は戦争で利益をあげました。三井炭鉱を中心に大牟田には石炭化学コンビナートが形成されました。三池炭鉱は、戦時、1年で300万トンを超える石炭を産出する日本最大の炭鉱でした。主な坑口が万田坑、宮浦坑、四山坑、三川坑です。



解脱塔と合葬之碑 (三池炭鉱受刑者の追悼碑、大牟田市内)

あいつく労働者の抵抗

20世紀に入ると三池炭鉱では、一般の労働者が増加します。第一次世界戦争を経て、労働者の権利意識も高まりました。1918年の米騒動の際、三池炭鉱の労働者は賃上げを求めて起ちあがりました。万田坑を中心に争議が拡大すると、軍隊が出動し、弾圧しました。1920年、三井資本は、労資協調をすすめ、共愛組合をつくり、労働者の懐柔をねらいました。

1924年6月、労働者は、三池製作所、三池染料、四山坑、万田坑、宮浦坑などでつぎつぎに争議団をつくって起ちあがりました。争議団は、賃金の3割昇給、退職手当1年につき30日分支給、共愛組合の撤廃、公傷者への給与支給、障がい・死亡手当の支給などを要求したのです。当時、三池には19,000人の労働者がいましたが、6,800人が争議に参加しました。三井の石炭化学による毒煙、悪水などの環境汚染も問題になっていました。

この争議を三井資本は切り崩しました。以後、三井は、労働者の思想調査、精神教育、身分格差の拡大などをすすめ、労働者への支配を強めました。戦時体制が強まった1940年、三池で産業報国会が結成され、共愛組合は解散しました。このような産業報国の動きが強まるなかで、朝鮮人が強制動員されたのです。



三池炭鉱万田坑 (葉書)



三池炭鉱四山坑 (葉書)

産業報国のかけ声とともに強制動員された朝鮮人

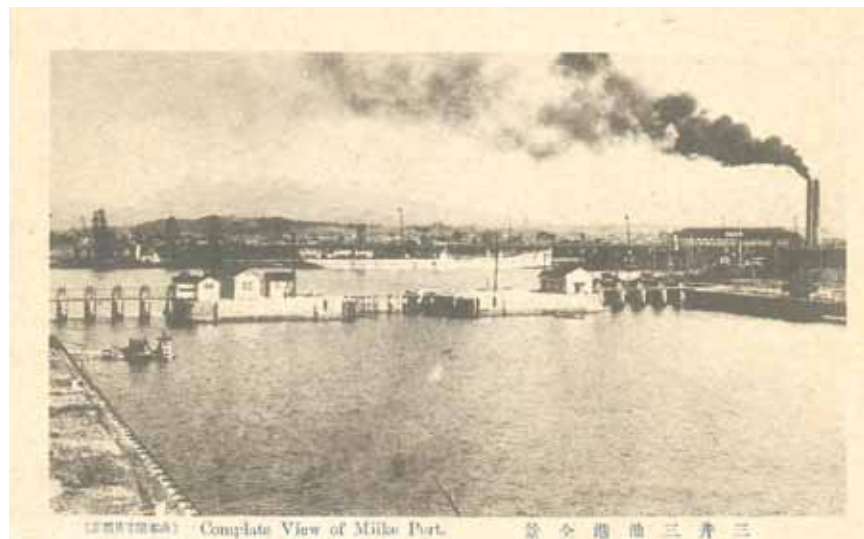
炭鉱は労働強度が高く、死亡率が高い作業場でした。1939年から1945年の間に、日本本土に動員された朝鮮人の4割が炭鉱に配置されました。三池炭鉱に強制動員された朝鮮人は9,000人を超えます。三池炭鉱は数多くの朝鮮人、中国人、連合軍捕虜が強制動員された場所としても有名です。

朝鮮に出むいた三池の人事担当者は、「連れてきたと言うものの、実際には捕まえてきた。行くとくに地域の面長、日本の憲兵など、力のある人びとに金と贈物を渡して協力を得た。田舎の村に昼間行っても、男たちはみな逃げ出すため、夜に行くこともあった。道端で通りすがりの朝鮮人を捕まえ、トラックに乗せたこともある」と話し

ています。

動員された現場では、いうことを聞かない朝鮮人を受刑者や奴隷のように扱い、青竹を挟ませて座らせる、ベルトで殴る、水を飲ませて腹を殴るといった暴力がふるわれました。日常的な侮辱、暴力、差別のなか、事故也多発し、逃亡が続出しました。

三井関連の三池染料、電気化学工業大牟田工場、東洋高圧工業大牟田工業所などにも朝鮮人が動員されました。電気化学工業大牟田工場には連合軍捕虜も動員されました。



三井三池炭鉱で過酷な労働を強いられた李鐘泌さん

李鐘泌さんは、1943年、忠清北道槐山から三池三井炭鉱へ連行され、四山坑の朝鮮人寮に入られました。昇降機で500メートルほど地下に降り、そこから先の坑道の石炭を掘る仕事をさせられました。1日のノルマはトロッコ15箱分でした。10～12時間働かなければとても間に合わない量でした。安全設備がなく、2日に1人は負傷者が出ました。ケガや病気で休むと、「勤労報国精神が足らん」とどなられ、食事の量が3分の1に減らされました。1か月に20日以上仕事に出ないと、日本人の労務係らに殴られるため、高熱を出しても坑内に入らざるを得ませんでした。

1944年7月頃から「遠からず朝鮮は必ず独立する。決して日本の手先になるな。今、抵抗することは仕事をサボることだ」と訴えた朝鮮人労働者がいましたが、憲兵隊に連行されました。逃亡を防止するために賃金の30～40パーセントを強制貯蓄させられましたが、それでも逃亡者はあいつぎました。残った朝鮮人労働者のノルマはトロッコ

20箱になりました。福岡にB29の爆撃もあり、「もう日本が手をあげる日は近い。こんなところで死んだら馬鹿らしい」と、1945年2月、李鍾泌さんは仲間と一緒に逃亡しました（朝鮮人強制連行真相調査団編『強制連行された朝鮮人の証言』1990年）。

1944年、三池炭鉱に強制動員された孫中求さん

孫中求さんは、京畿道開豊の紡績工場で働いていましたが、21歳の時に三池炭鉱に連行されました。坑道が崩れ落ちないように坑木を組み立てる仕事をしました。1日2交替で働きました。狭い坑内で坑木を背負って運搬したため、激しい腰痛に苦しめられました。地下の坑内は湿度と温度が高く、ガスが充満して爆発する危険もありました。坑道が崩れ落ちて生き埋めになったり、爆発事故で死んだ人もたくさんいました（2017年5月7日、証言）。



三池炭鉱関連MAP



関連施設案内



三池集治監跡

1883年、三池炭鉱の労働力確保のために国が設置した刑務所。三池監獄、三池刑務所と改称された後、1931年に閉庁。現在、三池工業高校にレンガ造りの外塀と石垣が残っている。1996年、福岡県指定有形文化財に指定。



住所 大牟田市上官町4丁目77 **交通** JR・西鉄「大牟田駅」から徒歩20分 **見学方法** 三池工業高校の外からは自由に見学できるが、敷地内に入る場合には事務室への問い合わせが必要。



馬渡記念碑（馬渡第一公園）

強制動員された朝鮮人の収容施設であった三井鉱山馬渡社宅が取り壊され、馬渡第一公園として整備された。1997年、社宅の保存を求めていた市民の要請によって設置された記念碑。



住所 大牟田市馬渡町39-14 **交通** JR・西鉄「大牟田駅」前から西鉄バスで「笠原」停留所下車、徒歩5分 **開園時間** 通年 **入園料** 無料



大牟田市石炭産業科学館



1995年に開館したエネルギー資源に関する科学館。朝鮮人の望郷の念が込められた馬渡社宅の押し入れの壁書（1989年発見）が保管、展示されている。

住所 大牟田市岬町6-23 **交通** JR・西鉄「大牟田駅」西口から徒歩約23分 **開館時間** 午前9時30分～午後5時 **休館日** 毎月最終月曜日、年末年始 **入館料** 大人410円 中学生以下200円 3歳以下無料



三井三池炭鉱宮浦坑中国人殉職者慰霊碑

2013年、大牟田市の宮浦石炭記念公園の一角に建てられた中国人追悼碑。日本中国友好協会福岡県連合会などが建立。碑文には、万田坑、四山坑、宮浦坑などに2,481人の中国人が連行され、635人が命を奪われた、宮浦坑には574人が連行され、強制労働により44人が亡くなったと記されている。



住所 大牟田市西宮浦町132-8 **交通** JR・西鉄「大牟田駅」から徒歩15分 **開園時間** 通年 **入園料** 無料



徴用犠牲者慰霊碑

第二次世界戦争中に三池に強制動員された朝鮮人を追悼するもの。1995年、在日コリア大牟田が建立。大牟田市、三井石炭鉱業、三井東圧化学、電気化学工業も協力。



住所 大牟田市甘木 甘木公園内 **交通** 西鉄「東甘木駅」から徒歩10分 **開園時間** 通年 **入園料** 無料



三池炭鉱万田坑

1902年に採掘が開始された三池炭鉱の主力坑口の一つ。1951年、採炭中止。



住所 荒尾市原万田200-2 **交通** JR「荒尾駅」前から産交バスで「万田坑前」停留所下車、徒歩3分 **開業時間** 午前9時30分～午後5時（入場は午後4時30分まで）
休業日 毎週月曜日、年末年始 **入場料** 大人410円 高校生300円 小・中学生200円
✓ ボランティアガイド常駐、定時ガイドあり（1日6回）。



三池炭鉱三川坑



1937年から斜坑掘削開始、1997年、閉鎖。労働争議、1963年の炭塵爆発事故などで知られる。すぐ隣には三井財閥の迎賓館「旧三井港倶楽部」（1908年開業）がある。大牟田市昭和町の延命公園には1963年の炭塵爆発事故の慰霊碑がある（写真）。

住所 大牟田市西港町 **交通** JR・西鉄「大牟田駅」前から西鉄バスで「三川町一丁目」停留所下車、徒歩3分 **開業時間** 土・日曜、祝日の午前9時30分～午後5時（入場は午後4時30分まで） **見学科** 無料 ✓ ボランティアガイド常駐。



三池港（展望所）

1908年、石炭の積み出し港として開港。水位の調節ができる日本で唯一の閘門式ドック。現在も稼働中、遠くから見学可能。展望所のほかに、「三池港あいあい広場」からも見学可能。



住所 大牟田市新港町 **交通** JR・西鉄「大牟田駅」前から西鉄バスで「三川町一丁目」停留所下車、徒歩8分 **開業時間** 午前9時30分～午後5時（入場は午後4時30分まで） **休業日** 毎月最終月曜日 **見学科** 無料 ✓ 土・日曜、祝日はボランティアガイド常駐。



三池炭鉱宮原坑・三池炭鉱専用鉄道敷跡

1898年、三井が最初に開発した坑口。三池集治監に収容されていた受刑者に過酷な労働を強いた場所としても知られる。別称「修羅坑」。1905年に三池港まで敷設された三池炭鉱専用鉄道の跡が宮原坑から万田坑、三池港近くまで残っている。宮原坑からも見学できる。



住所 大牟田市宮原町1丁目86-3 **交通** JR・西鉄「大牟田駅」前から西鉄バスで「末広町」停留所下車、徒歩10分 **開業時間** 午前9時30分～午後5時 **休業日** 毎月最終月曜日 **入場料** 無料 ✓ ボランティアガイド常駐。

4

世界遺産で強制労働を語り伝える意義



中学生・高校生からの平和を願う寄贈品・岡まさはる記念長崎平和資料館

世界遺産の中の強制労働

強制労働の歴史は「負の遺産」です。このような「負の遺産」を記すことが、普遍的な価値形成に寄与します。世界遺産には強制労働や奴隷労働について知ることができるものが数多くあります。

ボリビアのポトシ市街はスペイン支配による銀山経営と先住民族への強制労働を示すものです。イギリスの港湾都市リバプールは移民、奴隷貿易、産業革命などを語り伝えています。ポーランドのアウシュヴィッツ・ビルケナウ収容所跡はドイツによるユダヤ人の絶滅政策と強制労働を示すものです。

ドイツのルール炭田にあるエッセンのツォルフェライン炭鉱業遺産群は、重工業化の150年余りの歴史を示すものです。このツォルフェライン炭鉱では、戦時にポーランド・フランスなどからの動員者や戦争捕虜による強制労働がなされました。展示からは、ルール工業地帯が兵器生産の中心であり、二度の世界戦争を支えたこと、ユダヤ人や外国人、戦争捕虜の強制労働の場であったことがわかります。

ドイツのザール炭田にあるフェルクリンゲン製鉄所も重工業化の歴史を示すものです。ここでは第二次世界戦争中、1万人をこえる人びとが連行され、戦争末期にはロシア、フランス、ベルギー、イタリアなどからの動員者が労働を強いられました。その歴史も展示されています。



ツォルフェライン炭鉱業遺産群



ツォルフェライン炭鉱業遺産群における展示

代表的な「負の遺産」からも分かるように、世界遺産は自民族の自己賛美であってはならないのです。自国の産業化の歴史を示すだけでなく、強制労働などの「負の歴史」があったことを認知し、表現することが、普遍的な価値を実現する道につながります。産業化は、資本と労働、国際関係などさまざまな面からみることができるものです。近代化、産業化による強制労働や人権侵害などの「負の歴史」が示されるべきなのです。

産業遺産は明るい側面だけでなく、「負の歴史」を一緒に明らかにすることで、国際的で普遍的な価値をつくりだすことができます。「明治日本の産業革命遺産」も、そうすることで初めて歴史遺産としての評価が高まり、国際的な共感につながるのです。

未解決の戦後補償：強制労働被害者の権利

日本の植民地支配によって土地を奪われた朝鮮人は、日本の炭鉱、土木現場、工場などで、低賃金で働くようになりました。侵略戦争が拡大すると、朝鮮人の青年だけでなく、女性と児童まで強制動員され、労働を強いられました。

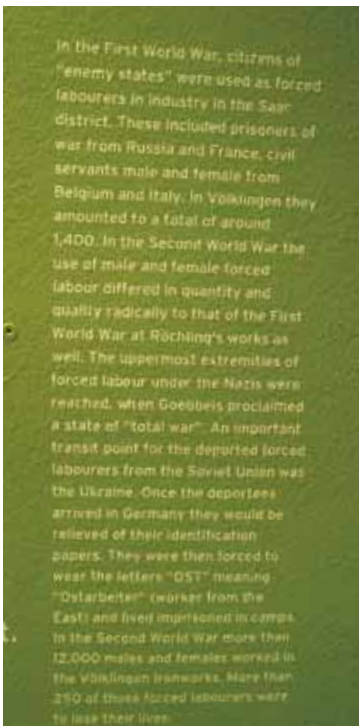
三菱鉱業、三井鉱山、日本製鉄、三菱重工業は強制労働の中心企業でした。三菱鉱業と三井鉱山系列の日本各地の炭鉱や鉱山に強制動員された朝鮮人は15万人を超えます。三菱と三井の炭鉱に動員された中国人も9,000人以上であり、強制労働に苦しめられました。韓国と中国など、アジアの強制労働の被害者は、1990年代以降、日本政府と企業の謝罪と賠償を求め続けてきました。

日本の市民と弁護士も被害者の訴えに応えるため、日本で行われる裁判に必要な証拠資料を調査し、カンパを集め、宣伝するなど、多様な活動をしました。遅れながらも、司法の正義を実現することによって、植民地支配と侵略戦争が残した強制労働という痛々しい傷を治癒しようと努力しました。しかし、日本政府と司法は強制労働被害者と市民の訴えを認めなかったのです。侵害された個人の大切な権利が救済されない限り、その社会は人権を保障する民主主義社会ではありません。強制労働問題はまさに譲ることのできない人権の問題なのです。

強制労働被害者の権利は、民事上の不法行為に対する損害賠償請求権の問題だけではありません。これまで国際社会で認められてきた反人道的な犯罪による被害者としての権利があるのです。それは、いくら時間が過ぎていても保障されるべき権利であり、原状回復は不可能だとしても、それに代える金銭賠償や再発防止の保障はもちろん、真実を記憶することが求められるのです（「重大な国際人権法、国際人道法



新日本製鉄株式会社を相手に韓国で提訴した被害者たち（2005年2月）



第一次世界戦争中、「敵国」の市民がザール地方の産業で強制労働者として使われた。そこにはロシアとフランス出身の戦争捕虜とベルギーとイタリアから来た男性と女性の公務員が含まれた。フェルクリンゲンの場合、計1,400人ほどだった。第二次世界戦争中には男女の強制労働の使用は第一次世界戦争の場合とは根本的に質的、量的に違っており、レヒリング家の工場〔フェルクリンゲン〕も同様だった。ナチの下でゲッベルスが「全面戦争」状態を宣言した時、強制労働は極限に達した。ソ連から国外に移送された強制労働者の主要な輸送地はウクライナであった。強制的に連行された人びとはドイツに到着するとすぐに身分証明書を奪われた。その次にかれらは「Ostarbeiter（東部から来た労働者）」を意味する「OST（東）」という文字を付けなければならず、収容所に拘禁されたままとされた。第二次世界戦争中、12,000以上の男女がフェルクリンゲン製鉄所で働いた。かれら強制労働者のうち、250人以上が命を失った。

フェルクリンゲン製鉄所と強制労働に関する展示パネル

強制動員の歴史の記憶と継承のための活動

日本各地の炭鉱、鉱山、港湾、軍需工場に朝鮮人が強制動員され、犠牲になりました。犠牲者を追悼し、その歴史を教訓とするために、市民が共同で建てた石碑と案内板があります。九州、山口地域の産業遺産の周辺にも石碑が建立されています。

筑豊の炭鉱と朝鮮人追悼碑

福岡県の内陸、筑豊は石炭生産の拠点であり、戦時には15万人の朝鮮人が強制動員されました。筑豊の炭鉱の産業遺産については、「明治日本の産業革命遺産」では除外されていますが、山本作兵衛の炭坑記録画がユネスコの記憶遺産に登録されています。

飯塚市庄司の飯塚霊園には、2000年に建立された無窮花堂があります。2004年には無窮花堂の周囲に歴史回廊ができました。在日筑豊コリア強制連行犠牲者納骨式追悼碑建立実行委員会は、解放後も放置されたままの遺骨を収集し、無窮花堂を建設しました。同実行委員会は2004年に無窮花堂友好親善の会となり、遺骨収集と平和友好をすすめています。調査により、遺骨の一部が三菱鯉田炭鉱、日鉄二瀬炭鉱、久恒炭鉱に動員された朝鮮人のものであることが判明しています。

飯塚市弥栄の麻生吉隈炭鉱跡地には、1985年に再建された徳香追慕碑があります。これは1936年の吉隈炭鉱事故での死者を追悼する碑です。この事故では29人が亡くなりましたが、そのうち25人が朝鮮人でした。1939年から45年にかけて麻生炭鉱に強制動員された朝鮮人は1万人を超えました。

田川市伊田の三井田川炭鉱跡、石炭記念公園には、1988年に建てられた韓国人徴用犠牲者慰霊碑があります。碑文には、強制動員、強制労働のなかで亡くなった人びとを追悼し、それを再び繰り返さないとする旨が記されています。強制労働された中国人を追悼する「鎮魂の碑」も、2002年に建立されています。田川市川宮の法光寺に



無窮花堂の内部

違反の被害者が救済及び賠償を受ける権利に関する基本原則及びガイドライン」国連総会決議第60/147号、2005年12月16日）。

100件に近い戦後補償裁判が行われましたが、原爆被害者による一部の裁判を除き、ほとんどが棄却されました。日本政府は、十分な真相調査もせず、賠償についても1965年の日韓条約で「完全に解決した」という立場を固持しています。けれども日韓条約では日本の侵略戦争と植民地支配による被害者個人への損害賠償問題は解決されてはいないのです。

2012年、韓国大法院は、「日本の国家権力が関与した反人道的不法行為や植民地支配に直結した不法行為による損害賠償権が請求権協定の適用対象に含まれていたと見ることは難しい」とし、日韓請求権協定によって個人の請求権は消滅していないという判断を示しました。

強制動員を含め、植民地支配に直結した不法行為に対する損害賠償の権利を認めただのです。日本による賠償が不十分であり、日本企業に賠償責任があることが明確になりました。

韓国の強制労働被害者は韓国内で、三菱重工業、新日鉄住金、不二越などの強制労働関係企業を相手に、裁判を続け、地方法院、高等法院で勝訴しています。大法院での勝訴も見込まれています（2017年現在）。日本の最高裁判所も2007年に裁判上訴求できないものの個人の請求権は残されていると判決しています。日本企業と日本政府はこれに応えなければなりません。

犠牲者の遺骨で現地に放置されたまま、故郷に帰ることができないでいるものもあります。父の遺品といえる貯金通帳もゆうちょ銀行に残されたままになっています。その数は3万8000冊ほどといえます。未解決の問題がまだあるのです。



貝島炭鉱跡地での連行朝鮮人の行方調査

は、1975年に建てられた朝鮮人炭坑殉職者の碑があります。

鞍手郡小竹町には、1994年に建立された追悼塔「松岩菩提」があります。ここには古河目尾炭鉱がありました。碑文には戦時下、若者が強制動員され、過酷な労働を強いられたという歴史が記されています。

宮若市には貝島大之浦炭鉱がありました。戦時には貝島大之浦へと1万人を超える朝鮮人が強制動員されました。宮田の千石公園には、1982年に建てられた「復権の塔」があります。「復権」とは、すべての炭鉱労働者を追悼し、傷ついた権利の回復を求め、連帯と尊厳を呼びかけるものです。



松岩菩提



馬渡記念碑



復権の塔

大牟田と長崎の市民による追悼活動

三池炭鉱がある福岡県大牟田、長崎造船所がある長崎にも朝鮮人や中国人を追悼する碑があります。朝鮮人収容所跡につくられた大牟田市の市営公園には、1997年、朝鮮人強制動員を記憶するための馬渡記念碑が建てられました。大牟田市の甘木公園には朝鮮人徴用犠牲者追悼碑があります。

大牟田の市民は、このような追悼碑を含め、炭鉱の歴史を人権の視点から学ぶことができるガイドブックを日本語と韓国語で作っています。

長崎市の平和公園には1979年に建てられた朝鮮人原爆犠牲者追悼碑、2008年に建てられた中国人原爆犠牲者追悼碑、1981年に建てられた連合軍捕虜の追悼碑（核廃絶人類不戦の碑）があります。長崎市は、住吉トンネル工場跡に、「居住者の多くは朝鮮人労働者でした。その中には、強制的に動員された者もあり、トンネルの掘削工事で過酷な労働に従事していました」と書いた案内板を設置しました。これらはすべて被害者や市民の力、働きかけによって実現しました。

「明治日本の産業革命遺産」の現地案内では、このような追悼碑、被害者や市民の活動についても解説し、強制労働の歴史について学ぶことができるようにするべきでしょう。



中国人原爆犠牲者追悼碑



すべての犠牲者の名を刻んだ追悼碑

山口県宇部市西岐波の浜近くには、2013年2月、日本の市民団体によって建立された追悼碑があります。1942年2月3日、長生炭鉱で起こった水没事故により、坑道に閉じ込められ、命を失った183人の犠牲者を追悼するために建てられたものです。183人の犠牲者のうち、136人が朝鮮人でした。

すべての犠牲者の名前が彫られた碑石の追悼文には、日本が国策として石炭増産を強力に推進したこと、犠牲になった朝鮮人は日本の植民地支配によって土地と財産を失った人びとと強制的に連れられてきた人びとであること、そのような歴史を反省し、再び他民族を踏みつけにするような暴虐な権力の出現を許さないために、力の限り尽くすことを誓うことなどが、韓国語と日本語で刻まれています。

八幡・長崎・三池でも犠牲者の名を刻み追悼することが求められます。



長生炭鉱犠牲者追悼碑

歴史と正義の危機を克服し、強制労働の歴史の認知と明示を！

何を、どのように記憶し、継承するべきなのでしょう。ユネスコの精神、それは、人間の尊厳を実現するための理念の追求、正義と自由、平和のための教育、さまざまな民族間の知的、精神的連帯を通じた国際平和と人類共通の福祉の実現を志向しています。

強制労働の歴史を記憶し、犠牲者を追悼することは、人間の尊厳の回復にむけての文化と平和の国際活動です。

資料

日韓市民団体共同声明書（2017年7月）

明治日本の産業施設の世界遺産登録2年を迎えて 「強制労働の現場にしみ込んだ被害者の血と汗、涙の 歴史を記録せよ！」

2年前、私たちは、「明治日本の産業革命遺産」という美名の下にアジア侵略と戦争の歴史を意図的に削除したまま23施設を世界遺産に登録しようとした日本政府を強く批判した。日本政府による世界遺産登録の試みは、強制連行・強制労働被害者はもちろん、ユネスコ創設の精神を欺瞞する行為だったからである。私たちは、「明治日本の産業革命遺産」が日本の右傾化に利用されてはならないこと、必ずや歴史の全貌が反映されなければならないことを強調した。アメリカ、オランダ、中国も、戦争捕虜と奴隷労働について記述のない世界遺産登録を反対した。

このような反対世論によって、2015年7月5日、ユネスコ世界遺産委員会は、「歴史の全貌を記述せよ」という勧告事項を盛り込んだ産業革命遺産の「条件付き」登録を決定した。これに対して、日本の佐藤地ユネスコ大使は、国際記念物遺跡会議の勧告を真摯に受け入れ、「1940年代に、自分の意思に反して連れて来られ、過酷な条件下で働くことを強制された多くの朝鮮人等が存在したこと、また、第二次世界大戦中に、日本政府が、徴用政策を実行したこと、これらの事実」の理解を可能にするために、「インフォメーションセンターの設置など、犠牲者を記憶にとどめるため適切な措置」をとると、総会の場で約束した。

日本政府は、後続措置として、2015年7月、産業革命遺産の登録を主導した加藤康子を内閣官房参与に任命し、戦時中に朝鮮から動員された「徴用工」などに関する「初の実態調査」を開始した。この調査結果に基づき、日本政府は、本年12月、ユネスコに「説明戦略」を報告することになっている。私たちは、この実態調査が誠実に実行され、歴史の事実を明らかにする報告が公表されることを願い、期待している。

しかし、私たちに伝わってくるいくつかのニュースは、期待より憂慮を強くさせる。世界遺産登録に当たって、安倍首相は、「日本が西洋技術を取り入れながら、自らの力で人を育て、産業を興し、産業国家となった」、「海外の科学技術と自国の伝統の技

を融合し、わずか50年あまりで産業化を成し遂げた日本」と「日本スゴイ」論ばかりを展開している。内閣閣僚らは、登録決定の直後から、「強制労働を認めたのではない」と公式否認した。日本の右翼メディアも、「強制労働はなかった」、「民族差別もなかった」などと、危険な歴史修正主義的な言辞を繰り返し生産している。今年発表された教科書叙述に関する指針に、安倍政府のこのような認識がそのまま反映されていることは明らかである。

このような状況において、強制労働の実態がきちんと「インフォメーションセンター」に反映されるのか、非常に懐疑的である。日本の産業化の進展、日本の発展は、「技術」の発展だけで成し遂げられたものではない。そこには多くの人びとの労働の歴史も含まれている。朝鮮などアジアへの侵略の歴史とも連結している。朝鮮人、中国人さらには第二次大戦中の連合国軍捕虜の労働もあった。そのような光と影が交錯して刻まれた歴史が、産業遺産には含まれている。

ユネスコ憲章前文は、「政府の政治的及び経済的取り決めのみに基づく平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって、平和が失われないためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かれなければならない」と述べている。「明治日本の産業革命遺産」の世界文化遺産登録が、日本と韓国、さらにアジアの人びとの間の「知的及び精神的連帯」を強化する契機となり、アジアの平和を築いていく一歩となることを私たちは望む。今回の日本政府の調査においては、強制労働と捕虜労働などの影と「犠牲者を記憶」するための歴史的事実がきちんと取り上げられなければならない。したがって、ユネスコICOMOSが勧告した「歴史の全貌」を明らかにすることに、日本政府が誠実に臨むことを強く求める。三菱、新日鉄住金を相手に今も被害補償裁判を行っている被害者の汗、涙、血の記録は、ありのまま、世界の人びとに知らされるべき歴史である。私たちは、そのような歴史をきちんと知らせる努力が行われる時まで、監視活動を続けていく。

2017年7月5日

韓国： 太平洋戦争被害者補償推進協議会、勤労挺身隊ハルモニと共にする市民の会、民族問題研究所、靖国反対キャンドル行動韓国委員会、フォーラム真実と正義、民主社会のための弁護士会過去事清算委員会

日本： 在韓軍人軍属裁判の要求実現を支援する会、名古屋三菱・朝鮮女子勤労挺身隊訴訟を支援する会、朝鮮人強制労働被害者補償立法をめざす日韓共同行動、日本製鉄元徴用工裁判を支援する会、ノー！ハプサ（NO！合祀）、強制動員真相究明ネットワーク



長生炭鉱犠牲者追悼碑に集まった日韓市民（2015年3月）



強制動員問題の総合的解決のために韓国ソウルに集まった被害者と日韓市民（2017年5月）

:: 団体紹介

強制動員真相究明ネットワーク

韓国の「日帝強占下強制動員被害真相糾明委員会」の活動を支援するために、2005年7月全国各地から数多くの市民が参加し結成。これまで全国的な強制動員被害者の遺骨に関する調査や、未払賃金の供託問題、郵便貯金の問題など韓国の委員会と協力・連携しながらその実態の解明や情報公開などを日本政府に求める活動を展開。「明治日本の産業革命遺産」の登録に際して二度の声明を発表。

民族問題研究所

韓国近現代史の争点と課題を解明し、韓日の過去清算を通じて屈折した歴史を改めていくために、1991年2月市民の力で韓国ソウルに設立。『親日人名事典』、『日帝植民統治機構事典』など事典の編纂と発刊、強制動員被害者・遺族への聴き取り調査、裁判支援、証言集の発刊、資料収集・展示、歴史教科書国定化阻止運動など、学術研究と実践運動を同時に展開。現在、ソウルにて「植民地歴史博物館」の建設を推進中。

:: 写真および資料提供・協力

強制動員真相究明ネットワーク 民族問題研究所 太平洋戦争被害者補償推進協議会 POW研究会 日中友好協会福岡県連合会大牟田支部 浦上刑務支所 中国人追悼碑建立委員会 日本製鉄元徴用工裁判を支援する会 岡まさはる記念長崎平和資料館

日韓市民による世界遺産ガイドブック

「明治日本の産業革命遺産」と強制労働

発行日 2017年11月28日

編集・発行 強制動員真相究明ネットワーク・民族問題研究所

連絡先 強制動員真相究明ネットワーク

〒657-0054 神戸市灘区山田町3-1-1 (財)神戸学生青年センター内
TEL 078-851-2760 URI <http://www.ksyc.jp/sinsou-net>

民族問題研究所

〒02462, Kumeon B/D 3F, Wangsanro 283, Dongdaemun-gu, Seoul, Korea
TEL +82-2-969-0226 URI <https://www.minjok.or.kr>